
平成30年（2018年）版

事業概要



公益財団法人 広島原爆障害対策協議会

目 次

I 公益財団法人広島原爆障害対策協議会の概況

1 目 的	1
2 事 業	1
3 沿 革	1

II 組 織

1 組織図	7
2 役 員・評 議 員	7
3 職 員	8

III 施 設

	9
--	---

IV 平成30年度事業計画

1 被爆者の健康診断・健康管理事業（公益事業1）	10
2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業（公益事業1）	11
3 被爆者の援護福祉事業（公益事業2）	11
4 市民の健康診断・健康管理事業（公益事業1）	12
5 広島市健康づくりセンターの管理運営事業（公益事業3）	13
6 検査診療及び人間ドック健診等の事業（収益事業）	14
7 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力	14

V 平成30年度予算

	15
--	----

VI 平成29年度事業実績

1 健康診断事業	
(1) 被爆者健康診断	16
ア 被爆者一般・精密検査の実施	16
イ 平成29年度被爆者一般・精密検査実施状況	18
ウ 被爆者がん検診等の実施	23
エ 平成28年度被爆者がん検診等実施状況	25
オ 原爆被爆者二世健康診断の実施	33
カ 健康管理の推進	33
キ 健康診断医療機器等の整備	33
ク 被爆者健康管理資料の整備	34
ケ 黒い雨体験者相談・支援事業の補助	34
(2) 高齢者医療確保法・健康増進法等による健康診査等	
ア 健康診査等の実施	35
イ 平成29年度健康診査実施状況	36
ウ 平成28年度がん検診等実施状況	37

エ 健康管理資料の整備	47
2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業	
(1) 調査研究の継続実施	48
(2) 文献の収集	48
(3) 第 58 回原子爆弾後障害研究会の開催	48
3 被爆者の援護福祉事業	
(1) 被爆者相談	49
(2) 被爆者の援護措置	49
4 健康教育事業	50
5 検査診療及び人間ドック健診等の収益事業	51
6 その他目的達成に必要な事業	52
7 平成 29 年研究業績	53

VII 資 料

1 年度別被爆者数（広島市及び広島県）	55
2 年賀寄附金配分金による実施事業	56
3 日本自転車振興会補助金による実施事業	57
4 車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業	57
5 広島県補助金による実施事業	58
6 広島市補助金による実施事業	59
7 日本高等学校教職員組合等からの寄付金	60
8 全国から寄せられた寄付金	61
9 核兵器廃絶・平和建設広島県民会議からの寄贈物品	65
10 日本労働組合総連合会広島県連合会からの寄贈物品	65
11 職員	66

I 公益財団法人広島原爆障害対策協議会の概況

1 目 的

この法人は、原爆障害の研究及び原爆被爆者の健康管理の対策並びに原爆被爆者の援護の対策について審議し、その推進を図るとともに、原爆被爆者をはじめとする住民の健康の維持増進に寄与することを目的とする。

2 事 業

この法人は前項の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 原爆被爆者の健康管理及び健康指導を行う事業
- (2) 原爆被爆者の障害及び健康管理に関する研究
- (3) 原爆被爆者の生活・健康・医療に関する相談及び原爆被爆者に対する援護を行う事業
- (4) 広島市健康づくりセンターの運営管理
- (5) 原爆被爆者の健康診断及び住民の健診事業の受託
- (6) その他目的達成に必要な事業

3 沿 革

昭和 20 年 8 月 6 日原子爆弾攻撃によって潰滅的な被害を蒙った広島市の被爆生存者達は、永い占領期間中悲惨な状態のまま放置されていたが、昭和 26 年の講和条約の締結、占領政治の終結を契機として「被爆者を救え」という声がおこった。

なかでも日頃ケロイド患者に接する広島市医師会・外科会に属する医師たちは、広島市医師会を動かして県・市当局に働きかけた。その結果、昭和 28 年 1 月、原爆障害者の医療を組織的に推進するために、広島県・広島市をはじめ、県・市医師会、大学医学部、官公立病院等が一体となって、「広島市原爆障害者治療対策協議会」(略称「原対協」)を結成して活動を開始、昭和 31 年 4 月には「財団法人広島原爆障害対策協議会」に改組し、被爆者の健康診断、健康管理に関する調査研究、援護に取り組んできた。

平成元年 9 月、「広島市総合健康センター」への移転後は、一般市民を対象とする健康診査や健康増進事業、健康教育事業を加え、被爆者をはじめ全ての市民の健康の維持・増進、被爆者の福祉向上のために各種事業を実施している。平成 24 年 4 月には、広島県知事から公益財団法人として認定を受け、「公益財団法人広島原爆障害対策協議会」に移行した。

昭和 28 年 1 月 「広島市原爆障害者治療対策協議会」(略称「原対協」)の設立

事務局を広島市社会課内に設置

昭和 29 年 1 月 被爆者の合同診察を開始

2 月 原爆障害者の実態調査を実施

10 月 事務局を広島市民病院内に移設

昭和 30 年 5 月 原爆乙女 25 名の渡米治療に協力

昭和 31 年 4 月 「財団法人広島原爆障害対策協議会」(略称「広島原対協」)に改組、認可

9 月 原爆病院の完成とともに事務局を同病院内に移設

昭和 32 年 9 月 第 9 回保健文化賞、厚生大臣の表彰を受賞

昭和 33 年 2 月 原対協援護事業として原爆被爆者のうち生活困窮者を救済するため、生活援護金の給付を開始

11 月 お年玉付郵便葉書寄付金の配分団体に指定

昭和 34 年 6 月 第 1 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

昭和 36 年 4 月 「広島原爆被爆者福祉センター」建設工事落成

5 月 「広島原爆被爆者福祉センター」落成とともに事務局を同センター内に移設

6 月 第 3 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

7 月 被爆者健康診断、職業補導、生活相談等の業務を開始

8 月 『広島原爆医療史』を発刊

昭和 38 年 10 月 「広島原爆被爆者健康管理所」を開設

11 月 第 5 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

昭和 39 年 3 月 「広島原爆被爆者福祉センター」の暖房設備工事完成

9 月 オデルカ・カメラを搭載した健康診断車「平和号」で被爆者の胃集団検診を開始

昭和 40 年 10 月 第 7 回「原子爆弾後障害研究会」を開催し研究講演集『20 年のまとめ』を発刊

昭和 42 年 5 月 精密健康診断車(ひかり号)を購入

6 月 日本自転車振興会・島根県・広島市・江津市の補助金を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を建設、被爆者の入湯療養を開始

昭和 43 年 7 月 「広島原爆被爆者福祉センター」の新館増築工事並びに旧館改造工事落成

10 月 第 9 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

11 月 自動分析機(オートアナライザー)を設置

昭和 44 年 2 月 日本自転車振興会・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」暖房設備工事等完成

3 月 テレビジョン X 線カメラを設置

8 月 勤労被爆者のため、広島原爆被爆者福祉センターで日曜健診を開始

続広島原爆医療史『被爆者とともに』を発刊

昭和 45 年 4 月 子宮がん検診を開始

5 月 「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の増築工事落成

6 月 第 11 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

昭和 46 年 3 月 「広島原爆被爆者福祉センター」の増改築、空調設備改良工事完成

6 月 第 12 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

「広島原爆被爆者福祉センター」開設 10 周年記念展示会を開催

昭和 47 年 5 月 全自動化学分析装置(ハイゼルマーク X)、自動血球計算装置(コールターカウンター)を設置

昭和 48 年 4 月 広島市の周辺町村合併にともなう被爆者健診対象者の大幅増加(約 17,000 人)により、出張健診班を 2 班編成

6 月 第 14 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

8 月 被爆二世の不安を除去するため、被爆者の子に対する健康診断を開始(広島市委託事業)

昭和 49 年 5 月 自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を購入

7 月 広島県・広島市からの助成により「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷房設備工事完成

12 月 肺機能検査機(パンスパイロコンピューター)を設置

昭和 50 年 4 月 勤労被爆者のため月 1 回夜間健診を開始

6 月 第 16 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

昭和 51 年 6 月 胃集検用テレビレントゲン設置及び自動血球計算装置を増設

昭和 52 年 6 月 第 18 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

-
- 昭和 53 年 7 月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室増改築等工事完成
X 線テレビジョン設置及び胸部一般撮影用 X 線装置を更新整備
- 8 月 勤労被爆者のため月 1 回日曜出張健診を開始
- 昭和 54 年 4 月 被爆者の胃検診(昭和 62 年に名称を「胃がん検診」に変更)を開始(広島市委託事業)
- 6 月 第 20 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 昭和 55 年 2 月 国の施策による被爆者二世健康診断を開始
- 8 月 自動血球分類装置(Diff-3)を設置
- 昭和 56 年 5 月 第 22 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 7 月 「広島原爆被爆者福祉センター」開設 20 周年記念パネル展示会を開催
- 10 月 広島県・広島市の補助を受け「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋根防水改修その他工事完成
- 昭和 57 年 9 月 自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を購入
- 昭和 58 年 6 月 第 24 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 昭和 59 年 9 月 自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新整備
- 昭和 60 年 6 月 第 26 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 8 月 広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の車庫上屋根新設工事等完成
- 昭和 61 年 7 月 コンピューテッドラジオグラフィ CR501(立位専用システム)設置及び胃透視用 X 線テレビ装置更新整備
- 昭和 62 年 3 月 コンピューテッドラジオグラフィ CR502(臥位専用システム)設置及び一般撮影用 X 線装置更新整備
- 4 月 被爆者の肺がん検診を開始(広島市委託事業)
- 6 月 第 28 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 8 月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の食堂拡張工事等施設整備工事完成
- 昭和 63 年 8 月 コンピューテッドラジオグラフィ CR201、CR 専用 X 線透視撮影台及び CR 用光ディスク画像ファイル装置を設置
- 8 月 国の施策による被爆者のがん検診(胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん、多発性骨髄腫)を開始
- 平成元年 3 月 自動血球計算装置(コールターカウンター)を更新整備及びフィルムデジタイザー、光ディスク画像ファイル装置を設置
- 6 月 第 30 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 9 月 新規事業の受託に対応するため、寄附行為の一部を改正
「広島市総合健康センター」への移転に当たり、「広島原爆被爆者福祉センター」の施設を広島市に寄贈
「広島市総合健康センター」の開館に伴い、診療所名を「広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター」に改称
老人保健法健康診査及び結核定期健康診断を開始
CR 専用 X 線透視撮影台及び心電図自動解析データファイリングシステムを設置
- 平成 2 年 4 月 老人保健法基本健康診査(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)・結核定期健康診断の出張健診及び老人保健法・被爆者の出張がん検診(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)を開始
-

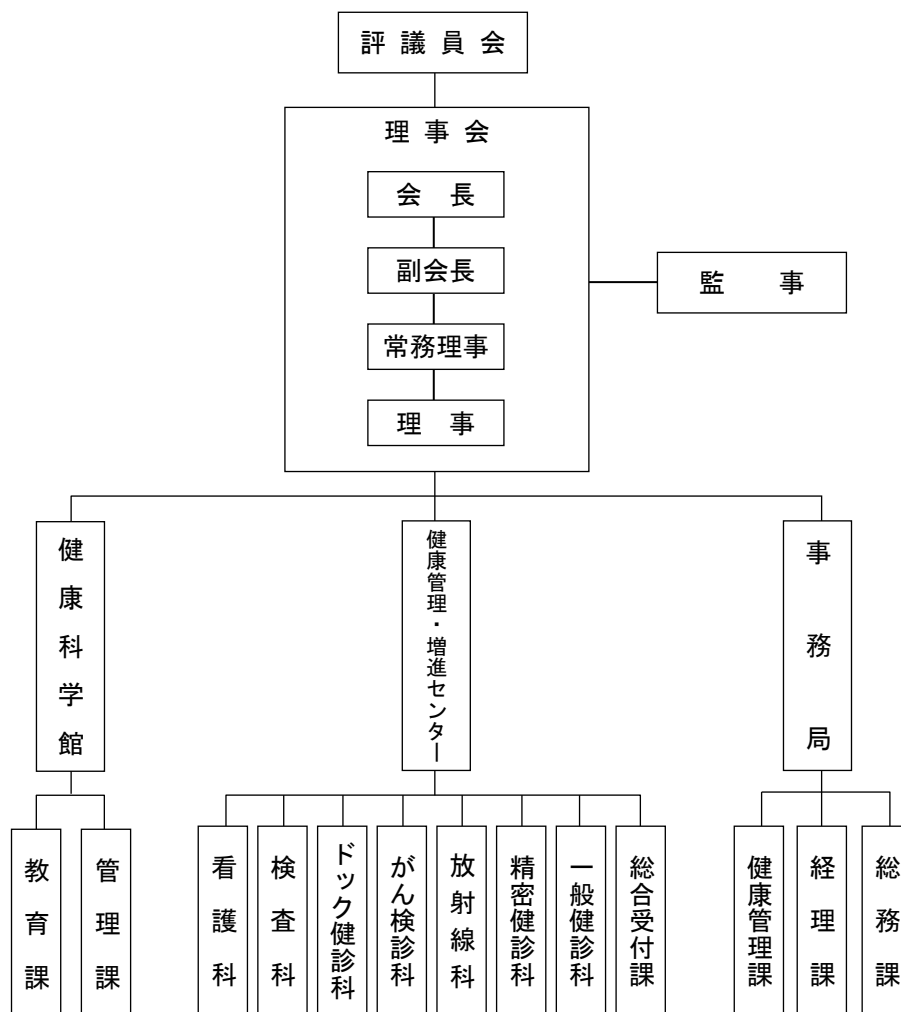
	8 月	磁気共鳴画像診断装置(MRI)を設置
平成 3 年	3 月	夜間健診を中止
	4 月	被爆者の大腸がん検診を開始(広島県・市委託事業)
	6 月	第 32 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	8 月	X 線骨密度測定装置及び超音波診断装置を設置
平成 4 年	4 月	被爆者・老人保健法の安芸区の出張がん検診を開始
	5 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR7501 を更新整備
	8 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を更新整備
	8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の内部・外部改修工事等施設整備工事完成
	10 月	国の施策による被爆者の大腸がん検診を開始
	11 月	老人保健法による大腸がん検診を開始
平成 5 年	4 月	被爆者・老人保健法の安佐南区・安佐北区の出張がん検診を開始
	6 月	第 34 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	8 月	胃集検用 X 線撮影装置(デジタルラジオグラフィ)を更新整備
平成 6 年	4 月	事務局組織改正。2 課 1 室を 3 課 2 室制に改める。
	5 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 を更新整備
	9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新整備
平成 7 年	4 月	被爆者の骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
	5 月	原爆被爆 50 周年記念特別講演会を開催
		第 36 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	6 月	内視鏡デジタルファイリングシステムを更新整備
	8 月	CR 用 X 線透視撮影装置を更新整備
	10 月	市民を対象とする骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
平成 8 年	4 月	老人保健法による肺がん出張検診を開始
	7 月	CR 用 X 線透視撮影装置を更新整備
	8 月	既設 MRI 装置をバージョンアップ
平成 9 年	4 月	市民を対象とするマンモグラフィによる乳がん検診を開始(広島市委託事業)
	6 月	第 38 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	7 月	X 線骨密度測定装置を更新整備
	8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室・浴槽等改修工事完成
平成 10 年	8 月	糖尿病予防対策事業を開始
		「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋上陸屋根防水工事完成
		コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 及び心電図データマネジメントシステムを更新整備
	10 月	C 型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)を開始(広島市委託事業)
平成 11 年	6 月	第 40 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	9 月	DR システム X 線テレビ装置を整備
平成 12 年	9 月	超音波診断装置を更新整備
平成 13 年	1 月	MRI 装置を更新整備
	6 月	第 42 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
平成 14 年	3 月	デジタル超音波診断装置を更新整備
	7 月	自動血球計算装置を更新整備
	8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷暖房設備改修工事完成

平成 15 年 4 月	市民の C 型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)に B 型肝炎ウイルス検査を追加(広島市委託事業)
6 月	第 44 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	内視鏡検査システムを更新整備
平成 16 年 1 月	乳房 X 線撮影装置を更新整備
	CRX 線画像診断のオンラインネットワークシステムを更新整備
4 月	第二次 CRX 線画像診断のオンラインネットワークシステムを整備
8 月	全自動血球計算装置搭載健診車を更新整備
平成 17 年 6 月	第 46 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	総合健診電算システムを更新整備
12 月	乳房 X 線撮影装置を整備
12 月	医用画像情報システムサーバーソフトウェアを拡張整備
平成 18 年 3 月	職業補導事業を廃止
4 月	マンモグラフィによる被爆者乳がん検診を開始
	老人保健法基本健康診査に生活機能評価を追加して実施
9 月	デジタル X 線透視撮影装置更新整備
10 月	被爆者健診に対する基本健康診査(生活機能評価)の実施
12 月	全自動血球計算装置搭載健診車更新整備(1 号車)
平成 19 年 1 月	X 線骨密度測定装置更新整備
6 月	第 48 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	X 線 CT 撮影装置整備
	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者 有福温泉療養研究所」外壁・厨房等の施設改善工事完成
平成 20 年 5 月	特定健康診査・特定保健指導を開始(広島市委託事業)
8 月	超音波診断装置更新整備
11 月	MRI 装置のアップグレード整備
平成 21 年 2 月	医用画像情報システム更新整備
3 月	デジタル胃集検 X 線透視撮影装置更新整備
4 月	日曜健診(第 1・第 3 日曜日)を午前のみの実施とし、第 3 日曜日に胃がん・肺がん検診を開始
6 月	第 50 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
10 月	女性特有のがん検診(無料クーポン券)の開始(広島市委託事業)
平成 22 年 1 月	医用画像情報システムビューワー更新整備
4 月	社会保険加入者の被扶養者の出張特定健康診査を開始
9 月	超音波画像診断装置更新整備
	全自動電気泳動装置更新整備
平成 23 年 3 月	FPD デジタル X 線透視撮影装置更新整備
4 月	日曜健診(第 3 日曜日)で乳がん・子宮がん検診を開始
6 月	第 52 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
9 月	広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念式典を開催
11 月	働く世代への大腸がん検診(無料クーポン券)の開始(広島市委託事業)
12 月	広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念パネル展を開催

-
- 平成 24 年 3 月 広島市健康づくりセンター 1 階（乳がん・子宮がん検診エリア等）改修工事完成
- 3 月 超音波画像診断装置更新整備
- 4 月 広島県知事の認定を受け、「公益財団法人広島原爆障害対策協議会」に移行
- 4 月 土曜健診を第 2・第 4・第 5 土曜日のみの実施に変更し、全ての土日健診（第 2・第 4・第 5 土曜日及び第 1・第 3 日曜日）で胃がん・肺がん検診を開始
- 平成 25 年 3 月 電子内視鏡ビデオ情報システム更新整備
- CR 画像制御装置更新整備
- 4 月 被爆者一般健診会場において肺がん検診の同時実施を開始
人間ドック等健診業務を開始（広島市医師会臨床検査センターから移管）
- 6 月 第 54 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 10 月 電子内視鏡システム更新整備
- 12 月 「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を廃止
- 平成 26 年 2 月 医用画像情報システム更新整備
- 5 月 広島市健康づくりセンター 1 階（総合受付・一般健診エリア）改修工事
- 9 月 生理検査波形システム更新整備
- 12 月 内視鏡情報管理システム更新整備
- 平成 27 年 2 月 新総合健診システム稼働
- 3 月 健康増進事業終了
- 5 月 上部消化管汎用ビデオスコープ増設
- 6 月 第 56 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 8 月 乳房用 X 線撮影装置更新整備
- 平成 28 年 8 月 自動血球計算装置更新整備
- 9 月 健診業務 LAN と情報処理系 LAN を分離したシステム構築
- 平成 29 年 6 月 第 58 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 7 月 上部消化管汎用ビデオスコープ増設
-

Ⅱ 組 織

1 組 織 図



2 役 員・評 議 員

公益財団法人広島原爆障害対策協議会 役員名簿

(平成 30 年 7 月 1 日現在)

役 職	氏 名	職 名
会 長	平 松 恵 一	広島県医師会長
副 会 長	松 村 誠	広島市医師会長
副 会 長	長 崎 孝 太 郎	医療法人厚生堂長崎病院理事長（前広島市医師会長）
常務理事	沢 近 紀 夫	沢近医院長
常務理事	横 山 行 男	医療法人横山内科医院長
常務理事	佐 々 木 政 弘	広島原爆障害対策協議会事務局長
理 事	服 部 登	広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子内科学教授
理 事	大 杉 薫	広島市健康福祉局原爆被害対策部長
理 事	墓 丸 尚 子	広島市健康福祉局保健部長
理 事	八 幡 毅	広島県健康福祉局被爆者支援課長
監 事	川 上 正 仁	医療法人社団祐仁会川上医院長
監 事	吉 原 靖 樹	一般財団法人広島市都市整備公社監事

氏 名	職 名
荒 木 康 之	広島市民病院長
泉 水 直	日本赤十字社広島県支部事務局長
大 久 保 雅 通	内科・糖尿病 久安医院長（広島市内科医会）
鎌 田 七 男	本郷中央病院（前広島原爆被爆者援護事業団理事長）
川 原 正 照	広島市歯科医師会長
木 内 良 明	広島大学病院長
木 矢 克 造	県立広島病院長
佐 々 木 博	広島市医師会副会長
田 中 剛	広島県健康福祉局長
豊 見 雅 文	広島県薬剤師会長
永 田 雅 紀	広島市議会議長
古 川 智 之	広島市健康福祉局長
古 川 善 也	広島赤十字・原爆病院長
松 浦 伸 也	広島大学原爆放射線医科学研究所長

(50 音順)

3 職 員

(平成30年7月1日現在、単位：人)

事務局		健康管理・増進センター		健康科学館	
職種	人員	職種	人員	職種	人員
事 務 局 長	1	医 師	所 長	館 長	1
事 務 職 員	10(2)		部 長	事 務 職 員	3<6>
検 査 技 師	2		常 勤 医 師	栄 養 士 嘱 託	<1>
自動車運転手	3(1)[1]		非常勤医師		
用 務 員	1		読 影 委 員		
			看 護 師		
			検 査 技 師		
			放 射 線 技 師		
			栄 養 士		
			薬 剤 師		
			事 務 職 員		
小 計	17 (3)[1]	小 計	146(3) <7>[8]	小 計	4<7>
				合 計	167(6) <14>[9]

注1：（ ）は本会再雇用職員で別掲

注2：< >は嘱託職員で別掲

注3：[]は無期転換職員で別掲

Ⅲ 施 設

広島市総合健康センターは、原爆被爆者を含めたすべての市民の健康をまもる拠点施設として、広島市と広島市医師会と本会の三者協力のもとに建設されたものであり、本会は、平成元年 9 月、この広島市総合健康センターの開館に伴い、国泰寺町の原爆被爆者福祉センターから移転した。

この敷地及び建物は広島市と広島市医師会がそれぞれ区分所有する合築施設であり、広島市が設置する施設は、「広島市健康づくりセンター」と称せられている。

本会は広島市が設置した「広島市健康づくりセンター」の管理運営を広島市から指定管理者の指定を受け、その業務を行っている。

- 1 所在地 広島市中区千田町三丁目 8 番 6 号
- 2 敷 地 9,622.67 m² (広島市 5,122.67 m²、広島市医師会 4,500.00 m²)
- 3 建 物 鉄筋コンクリート造 地下 1 階、地上 6 階建 延べ 15,916.26 m²

利用区分	面積
健康管理・増進センター専用	3,440.79 m ²
事務局専用	1,000.42
健康科学館専用	2,442.13
広島市・原対協事業共用部分	2,741.20
広島市医師会専用	3,199.19
広島市・広島市医師会共用部分	3,092.53
合 計	15,916.26

- 4 事業費 約 90 億円 (広島市約 65 億円、広島市医師会約 25 億円)

Ⅳ 平成30年度事業計画

本協議会は、長年にわたり被爆者や市民の健康管理及び健康の維持増進に取り組んできており、例えば、被爆者健診では広島市全体の実施件数の3分の2（平成28年度67％）を本協議会が担っている。

しかし、被爆者の減少、高齢化、市民の健診ニーズの多様化、他の医療機関の健診機能の充実が進んでいる。

こうした環境の中、平成30年度は、1)「被爆者の健康診断・健康管理事業」、「被爆者の健康管理に関する調査研究事業」、「被爆者の援護福祉事業」、2)「市民の健康診断・健康管理事業」、3)地域の医療機関との連携の下に行う「検査・診療事業」、4)「人間ドック健診事業」を着実に実施する。

また、5)本協議会が入居している広島市健康づくりセンターについて、平成30年4月から4年間、引き続き広島市から指定管理者の指定を受けることができたので、同センターの管理、「健康教育事業・子育て支援事業」を行う。6)健診・検査業務の向上を図るため、老朽検査機器の更新等を行う。7)平成29年度から待合室等の改装等を行っており、平成30年度も引き続き実施する。8)職員の資質の向上を図るため、平成29年度から広島県等が行う、マナーアップ、リーダー養成等各種研修に職員を参加させており、平成30年度も積極的に参加させる。

9)人件費については、平成29年度は退職手当を段階的に最大3割引下げに着手したほか、従来、国家公務員に準じてきた月例給のベースアップを2年連続見送った。平成30年度も引き続き中高年職員の定期昇給の抑制、医師等を除き常勤職員の不補充・パート切り替え等を行う。一方、職員のモチベーションアップに資するため平成29年度から始めた他の模範となるような勤務成績をあげた職員への顕彰等を引き続き行う。

1 被爆者の健康診断・健康管理事業（公益事業1）

（1）健康診断の実施

- ① 受診者の減少をふまえ、公民館等での巡回健診は、平成29年度より8会場減の延393会場で実施する。（廃止 牛田等4か所5回、回数減 楽々園等2か所3回）
- ② 廃止等する会場のうち、東雲1丁目集会所、元宇品会館等（4か所6回）については、平成30年度は受診者を近くの会場に搬送して健診を行う。
- ③ 広島市健康づくりセンターでは、引き続き平日のほか、第2・第4・第5の土曜日及び第1・第3の日曜日にも各種健診を行う。（なお、胃がん健診はバリウム検査のみ、また婦人科（乳がん、子宮がん）健診は第3の日曜日のみ実施。）
- ④ 被爆二世健康診断は、平成29年度に引き続き、受診の予約を市経由でなく本会が直接受ける方法により、受診者の利便を図ったうえで、広島市健康づくりセンター及び巡回健診会場において行う。
- ⑤ 健康づくりセンターの待合室等で、DVDによるがん予防等の啓発を行う。
- ⑥ 乳がん健診では、国の通知に基づき平成30年度から視触診を廃止する。
- ⑦ 巡回健診の日程等は、引き続き広島市の広報紙や本会HPで周知を図る。

＜実施目標＞	一般検査	13,200 件	精密検査	13,600 件
	胃がん健診（X線）	800 件	胃がん健診（内視鏡）	600 件
	肺がん健診	7,600 件	乳がん健診	1,400 件
	子宮がん健診	1,000 件	大腸がん健診	5,300 件
	多発性骨髄腫健診	9,600 件	骨粗鬆症健診	3,200 件
	被爆二世健康診断	2,500 件		

（２）健康管理の推進

- ① 各種検診データを基に、広島大学大学院医歯薬保健学研究院、同原爆放射線医科学研究所、（公財）放射線影響研究所等の協力の下、悪性新生物の早期発見に努める。
- ② 糖尿病・動脈硬化症・高血圧・骨粗鬆症について、健診結果に基づき、必要に応じて保健指導、栄養指導を行う。

（３）健康診断医療機器等の整備

検査機器の老朽化、検査ニーズの増加や特定健診（詳細項目）の充実（４の（１）の②参照）に対応するため、CT 装置、眼底カメラ、心電計等の更新や骨密度測定装置の増設を行う。

（４）被爆者健康管理資料の作成等

受診者の健診資料（健康診断個人票・心電図所見・がん症例報告等）を集計して統計資料を作成する。

また、本会が長年集積してきた膨大な検体や健診結果等について、関係機関と協議のもと、取り扱いを検討する。

（５）黒い雨体験者相談・支援事業の補助

広島県、広島市の黒い雨体験者に対する医師、臨床心理士、保健師による相談・支援事業に派遣する医師等の調整や相談記録のデータベース化等を行う。

２ 被爆者の健康管理に関する調査研究事業（公益事業１）

（１）調査研究の実施

被爆者の糖代謝に関する研究、形質細胞異常症の発症に対する原爆放射線の影響に関する研究、睡眠の量および質と各種疾患についての横断ならびに縦断調査等、平成２８年度以前に実施したものに加えて、平成２９年度に本会医師が新たに着手した次の６項目の研究も引き続き実施する。研究成果は原子爆弾後障害研究会、関係各学会等のほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙等に発表する。

- ① ウイルス肝炎スクリーニングの疫学的解析
- ② ピロリ菌の薬剤耐性の経時的変化
- ③ 大腸内視鏡検査と CT-C の併用の意義
- ④ 慢性腎臓病と心血管疾患の関連
- ⑤ 呼吸器疾患と喫煙習慣
- ⑥ 高齢者の生活習慣病健診のあり方の見直し

（２）文献の収集

原子爆弾後障害に関する医学論文等の整理保管。

（３）第５９回原子爆弾後障害研究会対応

平成３０年度は長崎市において、「第５９回原子爆弾後障害研究会」が開催されるので、広島市側の窓口として研究会開催を支援する。

３ 被爆者の援護福祉事業（公益事業２）

（１）被爆者相談の実施

被爆者の相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ、各種援護措置の説明等を行う。

(2) 援護措置の実施

「原爆被爆者援護規程」に基づいて本会独自で次の援護を行う。

- ① 生活困窮者に対する援護金支給
- ② 被爆身体障害者等に対する見舞金支給
- ③ 福祉用具貸与・購入費利用補助
- ④ その他必要と認める経費の一部補助

4 市民の健康診断・健康管理事業（公益事業１）

(1) 高齢者医療確保法等に基づく特定健康診査等の実施

- ① 公民館等での巡回検診は平成２９年度より３会場増の延１９９会場で行う。（２減（元宇品、亀山）、５増（基町中央等）で差引３増）
- ② 国が平成３０年度から、特定健診の詳細項目である心電図検査や眼底検査の対象者を広げたことに対応できるよう、検査態勢を整備する。（眼底カメラをオートフォーカス機能等のあるものに更新や読影医の確保等）
- ③ 広島市健康づくりセンターでは、引き続き平日のほか、第２・第４・第５の土曜日及び第１・第３の日曜日にも健診を行う。
- ④ 健診結果から生活習慣病のリスクが高く、特定保健指導を受ける必要があると判定された者については、結果説明に引き続き特定保健指導の受診を勧奨する。

<実施目標>

特定健康診査	15,000 件	（内、広島市国保 13,650 件）
特定保健指導	760 件	
後期高齢者健康診査	4,600 件	

(2) 健康増進法に基づくがん検診等の実施

- ① 受診者数をふまえて、巡回検診を平成２９年度より１２会場減の延３８５会場で行う。（胃がん＝２０減（五月、楽々園等）、７増（基町中央等）で差引１３減。子宮がん・乳がん＝１６減（湯来南等）、１７増（東区福祉センター等）で差引１増。）
- ② ５大がんと特定健診の同時実施を平成２９年度より３会場増の延５３会場で行う。（４増（佐伯区別館等）、１減（亀山）で差引３増）（数は①の内数）
- ③ 休日の巡回検診を平成２９年度と同数の延２５会場（内１５会場は②の５大がん等）で実施する。
- ④ 広島市健康づくりセンターでは、引き続き平日のほか、第２・第４・第５の土曜日と、第１・第３の日曜日にも、各種がん検診を行う。（なお、胃がん検診はバリウム検査のみ実施。また婦人科（乳がん、子宮がん）検診は第３の日曜日のみ実施。）
- ⑤ 他の医療機関からの依頼に基づく、胃内視鏡検査の二重読影を平成２９年度に引き続き実施する。
- ⑥ 平成３０年度より、㊦乳がん検診では視触診を廃止する。㊧骨粗鬆症検診を広島市健康づくりセンターに加えて、②の５大がん等同時実施会場でも行う。

<がん検診：実施目標>

胃がん検診（X線）	11,700 件	胃がん検診（内視鏡）	2,100 件
肺がん検診	24,060 件	大腸がん検診	19,000 件
乳がん検診	8,600 件※	子宮頸がん検診	7,000 件※

（※広島市の無料クーポン利用分を含む）

＜その他検診：実施目標＞

骨粗鬆症検診 3,700 件 肝炎ウイルス検査 6,900 件

- (3) 感染症法に基づく結核健康診断（65 才以上の肺がん検診との同時検査（15,975 件）を含む。）
の実施

＜実施目標＞

結核健康診断 16,000 件

- (4) 健康管理資料の整備

受診者の健診資料（健康診断個人票・心電図所見・がん症例報告等）を整理・保管する。

5 広島市健康づくりセンターの管理運営事業（公益事業3）

平成30年4月から4年間引き続き広島市から指定管理者の指定を受け、広島市健康づくりセンターの維持管理及び健康教育事業並びに子育て支援事業を行う。

- (1) 健康教育事業

健康に関する最新情報を分かりやすく正確に提供するとともに、教育研修等を積極的に行い、日常における健康管理について正しい知識の普及を図る。

（目標）健康科学館年間利用者数 52,400 人

- ① 健康科学展示施設の運営

- ・ 企画展開催 年 4 回
- ・ パネル展 年 12 回

- ② 健康ライブラリーの運営

- ・ 図書及びビデオを利用した学習の場の提供
- ・ インターネットによる健康情報の提供

- ③ 健康に関する教育研修の実施

- ・ 主催による研修会・イベント 年 46 回

- ④ ボランティア（ヘルスサポーター）の養成・育成

- ・ ボランティア養成講座（6課程） 年1回
- ・ ボランティア育成講座 年 2 回
- ・ ボランティアの活動 年 430 回

- (2) 子育て支援事業

- ① ファミリー・サポート・センター事業

会員同士の子育てに関する相互援助活動により、仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援機能の充実を図る。

（目標）年間延利用件数 9,600 件

- ② つどいの広場事業

子育て家庭の保護者と子どもが気軽につどい、あそびと育児相談などを行う常設の場を提供し、子育ての負担感の軽減や地域の子育て支援の充実を図る。

（目標）年間利用者数 20,600 人

- ③ パパとママの育児教室の開催

夫婦が協力して子育てを行うため、育児における夫婦の役割や育児全般について講義・実習を行い、家庭における育児能力の向上を図る。

- ・ 開催回数 年 34 回

6 検査診療及び人間ドック健診等の事業（収益事業）

（１）検査診療事業

本協議会の健診等において、悪性疾患等が疑われた者に、確定診断等のための詳細な検査（ＣＴ・ＭＲＩ・内視鏡・超音波検査等）を行う。

なお、治療が必要な場合には、外部医療機関等と連携して最善の方策を進める。

また、広島市医師会員からの依頼に基づき生体検査（ＣＴ・ＭＲＩ・超音波検査等）を行う。

（２）人間ドック健診等の事業

① 人間ドック健診、生活習慣病予防健診、事業所健診等及びその結果に基づく運動指導、栄養指導を行う。

また、メンタル面での健診メニューとしてストレスチェックを行う。

＜実施目標＞

人間ドック健診	1,890 件
生活習慣病予防健診（協会けんぽ）	3,311 件
事業所健診	3,381 件
ストレスチェック	700 件
栄養サポート・運動サポート	327 件

② 管理栄養士・健康運動指導士が、健診結果等に基づき、受診者一人ひとりに適した運動・栄養について指導・助言を行う。

＜実施目標＞

健康サポート	100 件
--------	-------

（３）軽度認知症等の早期発見の見地から、あたまの健康チェック等を行う。

＜実施目標＞

あたまの健康チェック（早期認知機能低下の早期発見）	150 件
ロコモチェック（運動機能低下の早期発見）	200 件

7 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

（１）放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

「放射線被曝者医療国際協力推進協議会（H I C A R E）」の主要推進団体として、被曝者医療を学ぶために来日した研修生の受入れ等、事業の推進に協力する。

（２）来日被爆者の健康診断、医療相談等の実施

来日した被爆者の健康診断及び医療相談、被爆者手帳の取得に必要な手続きの相談など、在外被爆者への支援を行う。

V 平成30年度予算

収 支 予 算 書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業会計					収益事業等会計	法人会計	合 計
	公益1	公益2	公益3	共 通	小 計	人間ドック 健診等事業		
	健康診断・ 調査研究事業	援護福祉事業	健康教育・ 子育て支援事業					
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	1	0	0	0	1	0	0	1
特定資産運用益	132	1	0	0	133	33	671	837
事業収益	952,633	0	93,724	0	1,046,357	391,813	0	1,438,170
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	752	0	0	752	0	0	752
雑収益	0	0	0	0	0	680	0	680
経常収益計	952,766	753	93,724	0	1,047,243	392,526	671	1,440,440
(2) 経常費用								
事業費	998,876	8,878	102,734	0	1,110,488	406,681		1,517,169
管理費							16,594	16,594
経常費用計	998,876	8,878	102,734	0	1,110,488	406,681	16,594	1,533,763
当期経常増減額	△ 46,110	△ 8,125	△ 9,010	0	△ 63,245	△ 14,155	△ 15,923	△ 93,323
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
固定資産除却損	32	0	0	0	32	8	0	40
経常外費用計	32	0	0	0	32	8	0	40
当期経常外増減額	△ 32	0	0	0	△ 32	△ 8	0	△ 40
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 46,142	△ 8,125	△ 9,010	0	△ 63,277	△ 14,163	△ 15,923	△ 93,363
法人税、住民税及び事業税					0	0	71	71
当期一般正味財産増減額	△ 46,142	△ 8,125	△ 9,010	0	△ 63,277	△ 14,163	△ 15,994	△ 93,434
一般正味財産期首残高	718,166	0	0	837	719,003	270,515	△ 56,060	933,458
一般正味財産期末残高	672,024	△ 8,125	△ 9,010	837	655,726	256,352	△ 72,054	840,024
II 指定正味財産増減の部								
受取寄付金	0	1,000	0	0	1,000	0	0	1,000
一般正味財産への振替額	0	△ 752	0	0	△ 752	0	0	△ 752
当期指定正味財産増減額	0	248	0	0	248	0	0	248
指定正味財産期首残高	0	1,000	0	200	1,200	0	0	1,200
指定正味財産期末残高	0	1,248	0	200	1,448	0	0	1,448
III 正味財産期末残高	672,024	△ 6,877	△ 9,010	1,037	657,174	256,352	△ 72,054	841,472

VI 平成29年度事業実績

1 健康診断事業

(1) 被爆者健康診断

原爆被爆者の健康管理のため、広島県・広島市及び島根県、大阪府、東京都、山口県の委託を受けて、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく原爆被爆者の健康診断を行っている。検査項目は下表のとおりである。

健診種別及び検査項目（平成29年度）

種 別		検 査 項 目
一般検査		問診等・CRP検査・血液一般検査・尿検査・血圧測定 ※医師が必要と認める場合、肝機能検査、ヘモグロビンA1c検査
精密検査		血液生化学検査・心電図検査・内臓の検査・運動器の検査等
がん検診	胃がん検診	問診・胃部X線撮影 又は 胃内視鏡検査
	肺がん検診	問診・胸部X線撮影、喀痰細胞診検査
	乳がん検診	問診・視診、触診、マンモグラフィによる画像診断
	子宮がん検診	問診・視診、内診、細胞診（頸部）
	多発性骨髄腫検診	問診・血液検査（血清蛋白分画検査）
	大腸がん検診	問診・便潜血二日法
骨粗鬆症検診		問診・骨塩定量検査（DEXA法）

一般検査は、毎年、前期・後期の2回行う定期健康診断のほかに、年2回を限度として申請による健康診断が受診できる。一般検査の結果、必要があると認められた場合に、精密検査を実施する。また、申請による健康診断のうち1回をがん検診として受診できる。

ア 被爆者一般・精密検査の実施

被爆者一般検査・精密検査は、広島市総合健康センター及び市内の各集会所、公民館等を会場とする出張健診会場（2か所）の3会場で実施しており、そのために健康診断班を3班（1班約10名－医師を含む）編成している。

また、広島市総合健康センターで毎月第1・第3日曜日の日曜健診を実施しているほか、年間10回日曜出張健診も実施している。被爆者一般・精密検査の年度別実施状況は表1のとおりである。

表 1 一般・精密検査の年度別実施状況 (人, %)

年度	一般検査		精密検査 実施件数(B)	精検受診率 (B)/(A)(%)	一般及び精密検査 延べ実施件数
	実施件数(A)	要精検者数			
昭和 36	20,949	—	3,818	18.2	24,767
37	57,090	—	10,730	18.8	67,820
* 38	60,005	—	10,818	18.0	70,823
39	70,672	—	14,691	20.8	85,363
40	70,634	—	14,135	20.0	84,769
* 41	75,751	—	13,648	18.0	89,399
42	78,372	23,087	15,453	19.7	93,825
43	84,459	26,056	14,595	17.3	99,054
* 44	94,427	27,894	15,352	16.3	109,779
45	89,890	36,988	26,761	29.8	116,651
46	93,001	40,868	31,771	34.2	124,772
* 47	111,119	51,433	42,300	38.1	153,419
48	101,612	48,393	38,024	37.4	139,636
49	112,068	50,713	42,871	38.3	154,939
* 50	113,852	52,996	45,437	39.9	159,289
51	109,040	51,559	44,652	41.0	153,692
52	107,000	53,453	49,959	46.7	156,959
* 53	109,531	54,948	50,785	46.4	160,316
54	104,928	61,201	58,273	55.5	163,201
55	100,788	56,415	53,404	53.0	154,192
* 56	100,289	57,168	54,360	54.2	154,649
57	94,857	57,692	55,137	58.1	149,994
58	91,003	60,524	58,999	64.8	150,002
* 59	90,495	65,715	64,863	71.7	155,358
60	91,336	68,221	67,177	73.5	158,513
61	87,533	67,361	66,511	76.0	154,044
* 62	87,372	67,439	66,659	76.3	154,031
63	82,107	63,024	62,883	76.6	144,990
平成元	76,987	59,818	60,461	78.5	137,448
* 2	73,429	58,652	59,539	81.1	132,968
3	68,285	55,675	57,705	84.5	125,990
4	63,771	53,925	55,561	87.1	119,332
* 5	60,666	56,596	58,567	96.5	119,233
6	55,979	54,270	56,860※	101.6※	112,839
7	54,275	53,702	56,145※	104.5※	110,420
* 8	52,175	52,541	54,967※	104.6※	107,142
9	49,876	49,797	51,917※	104.1※	101,793
10	47,229	47,210	49,467※	104.7※	96,696
* 11	45,168	45,156	47,154※	104.4※	92,322
12	43,121	43,114	45,019※	104.4※	88,140
13	40,614	40,607	42,191※	103.9※	82,805
14	39,269	39,268	41,440※	105.6※	80,709
15	38,432	38,432	40,607※	105.7※	79,039
16	35,588	35,584	37,198※	104.5※	72,786
17	33,997	33,995	35,996※	105.9※	69,993
18	33,086	33,084	34,603※	104.6※	67,689
19	30,639	30,637	32,659※	106.6※	63,298
20	29,043	29,040	30,319※	104.4※	59,363
21	27,417	27,412	28,924※	105.5※	56,341
22	25,619	25,616	27,428※	107.1※	53,047
23	23,952	23,947	25,508※	106.5※	49,460
24	22,339	22,339	23,510※	105.2※	45,849
25	21,056	21,056	22,176※	105.3※	43,232
26	18,760	18,758	19,544※	104.2※	38,304
27	17,698	17,695	18,759※	106.0※	36,457
28	16,020	16,020	16,546※	103.3※	32,566
29	15,209	15,209	15,418※	101.4※	30,627

* 手帳更新年度

※ 精密検査受診者数が一般検査受診者数より多いのは、一般検査を他の医療機関で受診し、精密検査のみ当所で実施した人数を含んでいるためである。

イ 平成 29 年度被爆者一般・精密検査実施状況

平成 29 年度の一般検査の受診者数は 15,209 人、精密検査の受診者は 15,418 人であった。詳細は以下のとおりである。

(7) 一般検査

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの 1 年間の当施設及び延 400 回の出張健診会場での一般検査受診者延数は表 2 a・b のとおり、男性 6,888 人、女性 8,321 人、計 15,209 人で、前年度との比較では 811 人の減少(男性 490 人、女性 321 人)である。年齢構成は、男性、女性とも 70 歳代がピークとなっている。平均年齢±標準偏差は男性 78.6±5.6 歳、女性 79.1±6.0 歳、全体では 78.9±5.8 歳である。健診会場別に受診者をみると、施設は 5,787 人(38.0%)、出張健診会場は 9,422 人(62.0%)であり、前年度に比し、施設健診は 417 人の減少、出張健診は 394 人の減少である。

出張健診の区別の受診状況は表 2 c に示すとおり、受診率は安芸区が 16.0% と最も高く、ついで安佐北区 12.5%、佐伯区 11.7% であり、全体では 10.0% である。

表 2 被爆者 一般検査

a 受診者数

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
70～79	4,181	60.7	4,850	58.3	9,031	59.4
80～89	2,520	36.6	2,977	35.8	5,497	36.1
90～102	187	2.7	494	5.9	681	4.5
計	6,888	100.0	8,321	100.0	15,209	100.0

b 健診会場別実施状況

(単位：日，人)

区 分	平成29年度(A)		平成28年度(B)		比較増減(A)－(B)	
	日数	受診者数	日数	受診者数	日数	受診者数
施設健診	295	5,787	291	6,204	4	△ 417
出張健診	400	9,422	389	9,816	11	△ 394
計	695	15,209	680	16,020	15	△ 811

c 出張健診区別実施状況

(単位：日，人，%)

区 分	平成29年度(A)				平成28年度(B)				比較増減(A)－(B)		
	日数	対象者数	受診者数	受診率	日数	対象者数	受診者数	受診率	日数	対象者数	受診者数
中 区	25	9,148	607	6.6	23	9,036	621	6.9	2	112	△ 14
東 区	52	10,148	1,005	9.9	49	10,636	1,072	10.1	3	△ 488	△ 67
南 区	58	13,141	1,118	8.5	57	13,746	1,145	8.3	1	△ 605	△ 27
西 区	57	17,172	1,325	7.7	57	18,003	1,390	7.7	0	△ 831	△ 65
安 佐 南 区	64	17,089	1,902	11.1	62	17,626	1,885	10.7	2	△ 537	17
安 佐 北 区	63	12,550	1,575	12.5	63	13,179	1,665	12.6	0	△ 629	△ 90
安 芸 区	25	4,327	693	16.0	23	4,523	769	17.0	2	△ 196	△ 76
佐 伯 区	56	10,191	1,197	11.7	55	10,568	1,269	12.0	1	△ 377	△ 72
計	400	93,766	9,422	10.0	389	97,317	9,816	10.1	11	△ 3,551	△ 394

(対象者数は、年間の延べ被爆者健診通知数)

d 要精検率

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数	
			%			%			%
70～79	4,181	4,181	100.00	4,850	4,850	100.00	9,031	9,031	100.00
80～89	2,520	2,520	100.00	2,977	2,977	100.00	5,497	5,497	100.00
90～102	187	187	100.00	494	494	100.00	681	681	100.00
計	6,888	6,888	100.00	8,321	8,321	100.00	15,209	15,209	100.00

(イ) 精密検査

平成 29 年度の精密検査受診者延数は表 3 a のとおり、男性 6,994 人、女性 8,424 人、計 15,418 人であり、前年度に比し男性は 674 人の減少、女性は 454 人の減少、全体では 1,128 人減少している。年齢別には一般検査と同様に男性、女性とも 70 歳代にピークがある。

精密検査受診者に対して実施した主な検査項目は表 3 c に示すとおり、肝機能検査が最も多く、次に、白血球分類、血糖検査、心電図検査、TSH(CLEIA)、Free T4、CAVI の順である。

問診や精密検査の結果、何らかの疾病を有し、これに対して治療の必要な者を要治療者とし、経過観察、追加検査及び食生活指導の必要な者を要経過観察者として、これらの精密検査受診者に対する比率をみたのが表 3 d・e である。要治療者については、男性では高血圧、高コレステロール血症、糖尿病の順に多くみられ、女性では高血圧、高コレステロール血症、骨粗鬆症の順である。要経過観察者についてみると、男性では高血糖、肝機能障害、高コレステロール血症の順に多くみられ、女性では、高血糖、高コレステロール血症、血尿の順である。

表 3 被爆者 精密検査

a 受診者数

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
70～79	4,272	61.1	4,938	58.6	9,210	59.8
80～89	2,535	36.2	2,990	35.5	5,525	35.8
90～102	187	2.7	496	5.9	683	4.4
計	6,994	100.0	8,424	100.0	15,418	100.0

b 要精検者に対する精密検査受診率

(単位：人，%)

年 齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	要精検者数	精検受診者数		要精検者数	精検受診者数		要精検者数	精検受診者数	
			受診率			受診率			受診率
70～79	4,181	4,272	102.2	4,850	4,938	101.8	9,031	9,210	102.0
80～89	2,520	2,535	100.6	2,977	2,990	100.4	5,497	5,525	100.5
90～102	187	187	100.0	494	496	100.4	681	683	100.3
計	6,888	6,994	101.5	8,321	8,424	101.2	15,209	15,418	101.4

c 精密検査における主な検査項目と実施件数

(単位：件)

検査項目	実施件数	検査項目	実施件数
肝機能検査	15,365	Free T3	370
白血球分類	15,216	胃内視鏡検査	344
血糖検査	15,209	CT	337
心電図	10,589	腹部超音波検査	282
TSH (CLEIA)	4,929	眼底検査	274
Free T4	4,928	甲状腺超音波検査	229
CAV	3,537	MRI	185
貧血検査	1,841	心臓超音波検査	183
尿沈査	1,388	ブドウ糖負荷試験	179
頸動脈超音波検査	1,283	大腸内視鏡検査	87
免疫グロブリン	664	スパイロメトリー検査	12
抗甲状腺抗体	547	細胞診検査	5

d 要治療者の疾病分類

(単位：人)

疾病区分	病 名	男 性		女 性		計	
		例数	%	例数	%	例数	%
感 染 症	そ の 他	5	0.07	7	0.08	12	0.08
悪 性 新 生 物	胃 癌	54	7.68	38	3.99	92	5.66
	肺 癌	27		19		46	
	多 発 性 骨 髄 腫	73		55		128	
	結 腸 ・ 直 腸 癌	21		19		40	
	乳 癌	0		58		58	
	前 立 腺 癌	274		0		274	
	膀 胱 癌	2		0		2	
	甲 状 腺 癌	31		116		147	
	食 道 癌	8		1		9	
	そ の 他	39		26		65	
良 性 新 生 物	そ の 他	4	0.06	1	0.01	5	0.03
内 分 泌 ・ 代 謝 疾	糖 尿 病	1,322	58.07	889	59.10	2,211	58.64
	甲 状 腺 腫	0		5		5	
	甲 状 腺 機 能 低 下 症	231		679		910	
	甲 状 腺 機 能 亢 進 症	10		53		63	
	高コレステロール血症	1,680		3,160		4,840	
	高 脂 血 症	31		17		48	
	痛 風	722		111		833	
	そ の 他	4		4		8	
血 液 疾 患	貧 血	130	1.97	192	2.48	322	2.25
	そ の 他	6		14		20	
精 神 障 害 ・ 神 経 感 覚 器 疾 患	パ ー キ ン ソ ン	24	9.10	46	12.74	70	11.09
	白 内 障	428		725		1,153	
	そ の 他	175		289		464	
循 環 器 疾 患	高 血 圧	3,544	74.51	3,987	63.71	7,531	68.60
	高 血 圧 性 心 疾 患	0		0		0	
	虚 血 性 心 疾 患	792		543		1,335	
	そ の 他 の 心 疾 患	647		651		1,298	
	脳 血 管 障 害	118		98		216	
	その他の循環器疾患	31		22		53	
呼 吸 器 疾 患	肺 炎	12	4.08	7	3.56	19	3.79
	慢 性 気 管 支 炎	2		1		3	
	喘 息	122		247		369	
	肺 気 腫	91		17		108	
	肺 線 維 症	2		1		3	
	そ の 他	52		23		75	
消 化 器 疾 患	胃 潰 瘍	24	5.15	13	4.48	37	4.79
	十 二 指 腸 潰 瘍	3		4		7	
	肝 機 能 障 害	209		181		390	
	そ の 他	119		175		294	
泌 尿 ・ 生 殖 器 疾	腎 炎	9	15.91	10	0.72	19	7.60
	腎 不 全	85		37		122	
	前 立 腺 肥 大 症	995		0		995	
	尿 路 感 染 症	0		1		1	
	そ の 他	7		12		19	
皮 膚 ・ 筋 骨 格 系 疾	リウマチ様関節炎	82	4.63	143	29.17	225	18.06
	骨 粗 鬆 症	209		2,244		2,453	
	そ の 他	28		40		68	
総被検者数		6,888		8,321		15,209	

e 要経過観察者の疾病分類

(単位：人)

疾病区分	病 名	男 性		女 性		計	
		例数	%	例数	%	例数	%
感 染 症	陳 旧 性 肺 結 核	2	0.32	2	0.06	4	0.18
	そ の 他	20		3		23	
新 生 物	多 発 性 骨 髄 腫	0	0.32	0	0.58	0	0.46
	その他の悪性新生物	2		2		4	
	胃 ポ リ ー プ	2		3		5	
	その他の良性新生物	18		43		61	
内 分 泌・代 謝 疾	耐 糖 能 低 下	35	20.15	20	23.51	55	21.99
	甲 状 腺 腫	20		75		95	
	その他の内分泌疾患	2		3		5	
	高コレステロール血症	805		1,622		2,427	
	高 脂 血 症	106		41		147	
	そ の 他 の 代 謝 疾 患	420		195		615	
血 液 疾 患	貧 血	110	1.60	267	3.22	377	2.49
	そ の 他	0		1		1	
精 神 障 害・ 神経感覚器疾患	精 神 障 害	0	0.00	1	0.01	1	0.01
	神 経 感 覚 器 疾 患	0		1		1	
循 環 器 疾 患	高 血 圧	246	14.23	203	9.09	449	11.41
	高血圧性心疾患	0		0		0	
	虚血性心疾患	2		0		2	
	その他の心疾患	63		47		110	
	脳 血 管 障 害	19		12		31	
	その他の循環器疾患	650		494		1,144	
呼 吸 器 疾 患	喘 息	0	0.26	0	0.06	0	0.15
	肺 気 腫	8		0		8	
	肺 線 維 症	2		2		4	
	そ の 他	8		3		11	
消 化 器 疾 患	胃 炎	29	13.59	11	6.11	40	9.49
	肝 機 能 障 害	851		457		1,308	
	そ の 他	56		40		96	
泌 尿・生 殖 器 疾	腎 炎	423	14.97	103	9.22	526	11.82
	そ の 他	608		664		1,272	
皮 膚・筋 骨 格 系 疾	皮 膚 疾 患	0	0.04	0	0.07	0	0.06
	リウマチ様関節炎	0		0		0	
	骨 粗 鬆 症	1		4		5	
	その他の骨関節疾患	2		2		4	
そ の 他	血 尿	584	50.91	1,616	46.58	2,200	48.54
	蛋 白 尿	478		296		774	
	高 血 糖	2,385		1,942		4,327	
	尿 糖	59		22		81	
	そ の 他	1		0		1	
総被検者数		6,888		8,321		15,209	

ウ 被爆者がん検診等の実施

被爆者がん検診(胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん・多発性骨髄腫)は、被爆者の高齢化に伴う健康不安の増大等に対し、健康不安を解消するとともに健康管理の充実を図るため、昭和 63 年度から原子爆弾被爆者の医療等に関する法律（平成 7 年、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に移行）に基づく被爆者健康診断の一環として導入されたものである。これは希望による健康診断 2 回のうち 1 回をがん検診として受診できることになっている。

平成 2 年度からは、胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん検診を安佐南区、安佐北区及び安芸区を除く出張健診会場で実施し、平成 4 年度から安芸区、平成 5 年度から安佐南区、安佐北区の出張健診会場においても実施している。

また、平成 4 年度から大腸がん検診を実施し、平成 7 年度からは広島市の施策として骨粗鬆症検診を施設において実施し、平成 18 年度からは、乳がん検診に乳房 X 線検査（マンモグラフィ）が必須項目となった。

なお、平成 28 年 7 月からは、胃がん検診は胃部 X 線検査と胃内視鏡検査を選択できるようになった。

被爆者がん検診の推移は表 4、被爆者がん検診等の年度別実施状況は表 5 のとおりである。

表 4 被爆者がん検診の推移

検診会場 検診	施設検診	出張検診		
		中区・東区・南区・ 西区・佐伯区	安芸区	安佐南区 安佐北区
胃がん検診	昭和 63 年 8 月～	平成 2 年 4 月～	平成 4 年 4 月～	平成 5 年 4 月～
肺がん検診				
乳がん検診				
子宮がん検診				
多発性骨髄腫検診		昭和 63 年 8 月～		
大腸がん検診	平成 4 年 10 月～	平成 4 年 10 月～		
骨粗鬆症検診	平成 7 年 4 月～			

表 5 被爆者がん検診等年度別実施状況

(単位：件)

年 度	胃がん検診※	肺がん検診	乳がん検診	子宮がん 検 診	多発性骨髄 腫 検 診	大腸がん 検 診	骨粗鬆症 検 診
昭和 54	2,165						
55	4,388						
56	2,843						
57	4,979						
58	5,446						
59	5,079						
60	5,142						
61	5,024						
62	4,973	201					
63	5,255	6,442	961	897	40,027		
平成元	3,848	8,052	809	751	43,045		
2	6,415	10,579	2,468	2,277	40,060		
3	5,976	10,964	2,304	2,135	40,418	4,018	
4	6,702	12,107	2,736	2,466	41,521	19,535	
5	8,095	14,189	3,630	3,390	34,909	18,306	
6	7,754	15,999	3,343	3,130	37,600	16,812	
7	8,034	16,522	3,305	3,105	36,347	16,196	3,995
8	7,953	16,104	3,288	3,094	30,677	16,657	3,891
9	7,835	15,764	3,155	2,959	33,103	15,619	5,605
10	7,574	15,148	2,783	2,649	31,304	15,029	6,055
11	7,878	15,542	2,947	2,779	28,068	15,105	6,597
12	7,686	15,523	3,024	2,876	28,793	14,472	7,000
13	7,244	14,967	2,860	2,715	26,898	13,901	6,848
14	7,161	15,596	2,843	2,724	26,131	13,669	7,211
15	7,215	15,573	2,907	2,736	25,502	13,375	7,516
16	6,950	14,650	2,864	2,548	23,823	12,453	7,193
17	6,809	14,135	2,590	2,405	22,804	12,288	6,580
18	6,416	13,720	3,073	2,499	22,401	11,570	6,480
19	5,967	12,972	3,026	2,499	20,416	11,257	6,049
20	5,445	12,588	2,997	2,427	19,555	10,988	5,932
21	4,971	12,503	3,096	2,498	18,581	10,503	5,888
22	4,514	11,708	2,686	2,260	17,352	9,639	5,623
23	4,133	11,159	2,536	2,040	16,376	9,766	5,306
24	3,891	10,438	2,527	2,032	15,311	9,331	5,132
25	3,392	11,311	2,300	1,870	14,468	8,570	4,984
26	2,881	10,278	2,098	1,696	13,120	7,577	4,530
27	2,317	9,681	1,993	1,567	12,401	7,025	4,543
28	2,268(445)	8,730	1,779	1,360	11,253	6,345	3,855
29	1,980(487)	8,345	1,643	1,276	10,544	6,016	3,553

※ 胃がん検診は、平成 28 年 7 月から、胃部 X 線検査か胃内視鏡検査を選択できるようになった。

()内は胃内視鏡検査の実施数(内数)

昭和 62 年度までの胃がん検診、肺がん検診及び平成 3 年度の大腸がん検診は、広島市独自の法外援護事業として広島市の委託を受けて実施したものであり、昭和 63 年度以降（大腸がん検診は平成 4 年度以降）は国の制度として、広島県、広島市及び島根県、大阪府、山口県、東京都の委託を受けて実施したものである。

エ 平成 28 年度被爆者がん検診等実施状況(平成 30 年 6 月末までの追跡調査の結果)

(7) 胃がん検診

胃がん検診における受診者は表 6 a のとおり、男性 1,307 人、女性 961 人、計 2,268 人である。要精検率は男性 13.5%、女性 9.9%、計 12.0%、精検実施率はそれぞれ 97.2%96.8%、97.1%である。要精検率は女性に比し男性はやや高率であり、年齢別には、一定の傾向が見られなかった。

精検実施者における精検結果は表 6 b に示すとおり、有所見率は男性 17.14%、女性 10.93%、全体では 14.51%であり、男性が女性に比し高率である。主な所見の内訳を頻度の高い順に示す。胃ポリープ 1.10%、胃癌 0.62%、胃潰瘍 0.62%、胃腺腫 0.13%である。

平成 28 年度新たに発見された胃癌症例は、表 6 c に示すとおりである。胃癌症例は男性 10 例、女性 4 例、計 14 例である。胃癌発見率は男性 0.77%、女性 0.42%、計 0.62%で、推定発見率はそれぞれ 0.79%、0.43%、0.64%で男性が高率である。

表 6 被爆者 胃がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²	
69～79	999	121	12.1	119	98.3	745	70	9.4	67	95.7	1,744	191	11.0	186	97.4
80～89	302	55	18.2	52	94.5	208	24	11.5	24	100.0	510	79	15.5	76	96.2
90～92	6	1	16.7	1	100.0	8	1	12.5	1	100.0	14	2	14.3	2	100.0
計	1,307	177	13.5	172	97.2	961	95	9.9	92	96.8	2,268	272	12.0	264	97.1

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見										有所見例数	
		胃 癌		胃腺腫		胃ポリープ		胃潰瘍		その他		正常	
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
男 性	69～79	5	0.50	0	0.00	14	1.40	9	0.90	136	13.61	3	164
	80～89	5	1.66	1	0.33	3	0.99	2	0.66	47	15.56	3	58
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	33.33	0	2
	計	10	0.77	1	0.08	17	1.30	11	0.84	185	14.15	6	224
女 性	69～79	4	0.54	0	0.00	5	0.67	2	0.27	62	8.32	4	73
	80～89	0	0.00	2	0.96	3	1.44	1	0.48	24	11.54	1	30
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	25.00	0	2
	計	4	0.42	2	0.21	8	0.83	3	0.31	88	9.16	5	105
計	69～79	9	0.52	0	0.00	19	1.09	11	0.63	198	11.35	7	237
	80～89	5	0.98	3	0.59	6	1.18	3	0.59	71	13.92	4	88
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	28.57	0	4
	計	14	0.62	3	0.13	25	1.10	14	0.62	273	12.04	11	329

¹ 所見率:所見例数/受診者数×100

c 被爆状況別に見た胃癌発見率

(単位:人)

性	被 曝 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率% ³	推定発見率% ⁴
男性	2.0km以内直接被爆群	234	32	13.7	32	100.0	2	0.85	0.85
	2.1km以上直接被爆群	459	70	15.3	66	94.3	2	0.44	0.47
	入 市 ・ 他 群	614	75	12.2	74	98.7	6	0.98	0.99
	計	1,307	177	13.5	172	97.2	10	0.77	0.79
女性	2.0km以内直接被爆群	169	16	9.5	15	93.8	2	1.18	1.26
	2.1km以上直接被爆群	329	32	9.7	31	96.9	1	0.30	0.31
	入 市 ・ 他 群	463	47	10.2	46	97.9	1	0.22	0.22
	計	961	95	9.9	92	96.8	4	0.42	0.43
計	2.0km以内直接被爆群	403	48	11.9	47	97.9	4	0.99	1.01
	2.1km以上直接被爆群	788	102	12.9	97	95.1	3	0.38	0.40
	入 市 ・ 他 群	1,077	122	11.3	120	98.4	7	0.65	0.66
	計	2,268	272	12.0	264	97.1	14	0.62	0.64

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数(食道癌を含む)/受診者数×100

⁴ 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(イ) 肺がん検診

肺がん検診の受診者は表 7 a のとおり、男性 4,150 人、女性 4,580 人、計 8,730 人である。

要精検率は男性 2.9%、女性 2.5%、計 2.7%、精検実施率はそれぞれ 94.1%、96.5%、95.3%である。

精検結果は表 7 b に示すとおり、有所見率は男性 2.82%、女性 2.27%、計 2.53%で男性が高率である。主な所見の内訳を頻度の高い順に示す。肺炎 0.23%、肺癌 0.19%、肺気腫 0.14%、肺線維症 0.09%、非結核性抗酸菌感染症 0.03%、縦隔腫瘍 0.01%である。

平成 28 年度新たに発見された肺癌症例と発見率は表 7 c に示すとおりである。肺癌症例は、男性 10 例、女性 7 例、計 17 例である。肺癌発見率は男性 0.24%、女性 0.15%、計 0.19%で、推定発見率はそれぞれ 0.26%、0.16%、0.20%である。被爆状況別の肺癌発見率には、一定の傾向は見られない。

表 7 被爆者 肺がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²
69～79	2,756	72	2.6	69	95.8	2,894	55	1.9	54	98.2	5,650	127	2.2	123	96.9
80～89	1,334	44	3.3	40	90.9	1,513	54	3.6	52	96.3	2,847	98	3.4	92	93.9
90～102	60	3	5.0	3	100.0	173	6	3.5	5	83.3	233	9	3.9	8	88.9
計	4,150	119	2.9	112	94.1	4,580	115	2.5	111	96.5	8,730	234	2.7	223	95.3

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性		年齢 (歳)	精 検 所 見														有所見例数		
			肺 癌		縦隔腫瘍		非結核性抗酸菌症疑		肺 炎		肺気腫		肺線維症		その他				正常
				% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			
男性	69～79	7	0.25	0	0.00	0	0.00	7	0.25	9	0.33	4	0.15	48	1.74	3	75	2.72	
	80～89	3	0.22	0	0.00	0	0.00	4	0.30	1	0.07	0	0.00	30	2.25	3	38	2.85	
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	1.67	0	0.00	3	5.00	0	4	6.67	
	計	10	0.24	0	0.00	0	0.00	11	0.27	11	0.27	4	0.10	81	1.95	6	117	2.82	
女性	69～79	3	0.10	1	0.03	2	0.07	6	0.21	1	0.03	1	0.03	38	1.31	3	52	1.80	
	80～89	3	0.20	0	0.00	1	0.07	2	0.13	0	0.00	2	0.13	39	2.58	5	47	3.11	
	90～102	1	0.58	0	0.00	0	0.00	1	0.58	0	0.00	1	0.58	2	1.16	0	5	2.89	
	計	7	0.15	1	0.02	3	0.07	9	0.20	1	37.31	4	0.09	79	1.72	8	104	2.27	
計	69～79	10	0.18	1	0.02	2	0.04	13	0.23	10	0.18	5	0.09	86	1.52	6	127	2.25	
	80～89	6	0.21	0	0.00	1	0.04	6	0.21	1	0.04	2	0.07	69	2.42	8	85	2.99	
	90～102	1	0.43	0	0.00	0	0.00	1	0.43	1	0.43	1	0.43	5	2.15	0	9	3.86	
	計	17	0.19	1	0.01	3	0.03	20	0.23	12	0.14	8	0.09	160	1.83	14	221	2.55	

¹ 所見率: 有所見例数/受診者数×100

c 被爆状況別に見た肺癌発見率

(単位:人)

性	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肺 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率% ³	推定発見率% ⁴
男 性	2.0km以内直接被爆群	854	28	3.3	26	92.9	2	0.23	0.25
	2.1km以上直接被爆群	1,485	45	3.0	41	91.1	5	0.34	0.37
	入 市・他 群	1,811	46	2.5	45	97.8	3	0.17	0.17
	計	4,150	119	2.9	112	94.1	10	0.24	0.26
女 性	2.0km以内直接被爆群	930	25	2.7	24	96.0	3	0.32	0.33
	2.1km以上直接被爆群	1,536	41	2.7	39	95.1	3	0.20	0.21
	入 市・他 群	2,114	49	2.3	48	98.0	1	0.05	0.05
	計	4,580	115	2.5	111	96.5	7	0.15	0.16
計	2.0km以内直接被爆群	1,784	53	3.0	50	94.3	5	0.28	0.30
	2.1km以上直接被爆群	3,021	86	2.8	80	93.0	8	0.26	0.28
	入 市・他 群	3,925	95	2.4	93	97.9	4	0.10	0.10
	計	8,730	234	2.7	223	95.3	17	0.19	0.20

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数/受診者数×100

⁴ 推定発見率: 発見率/精検実施率×100

(ウ) 乳がん・子宮がん検診

乳がん検診の受診者数は表 8 a のとおりで 1,779 人、子宮がん検診は 1,360 人である。要精検率は、乳がん検診が 3.7%、子宮がん検診が 0.1% である。また精検実施率はそれぞれ 97.0%、100.0% である。

表 8 b にそれぞれの精検結果を示す。乳がん検診の有所見率は 2.81% である。所見の内訳は乳癌が 0.96% と最も多く、線維腺腫 0.73%、乳腺症 0.67%、の順である。子宮がん検診の有所見率は 0.07% である。

平成 28 年度に新たに発見された乳癌、子宮頸癌は、表 8 c に示すとおりである。乳癌症例は 17 例、子宮頸癌は 0 例である。発見率は乳癌 0.96%、子宮頸癌 0.00%、推定発見率はそれぞれ 0.99%、0.00% である。

表8 被爆者 乳がん・子宮がん

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

乳がん 検診	年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子宮 がん 検診	年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
				% ¹		% ²					% ¹		% ²
	69～79	1,408	54	3.8	53	98.1		69～79	1,091	1	0.1	1	100.0
	80～89	357	12	3.4	11	91.7		80～89	257	1	0.4	1	100.0
	90～95	14	0	0.0	0	0.0		90～93	12	0	0.0	0	0.0
	計	1,779	66	3.7	64	97.0		計	1,360	2	0.1	2	100.0

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

乳がん 検診	年齢 (歳)	精 検 所 見									有所見例数	
		乳 癌		線維腺腫		乳腺症		その他		正常		
			% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
	69～79	14	0.99	11	0.78	10	0.71	7	0.50	11	42	2.98
	80～89	3	0.84	2	0.56	2	0.56	1	0.28	3	8	2.24
	90～95	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	計	17	0.96	13	0.73	12	0.67	8	0.45	14	50	2.81

子宮 がん 検診	年齢 (歳)	精 検 所 見									有所見例数	
		子宮頸癌		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他		正常		
			% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
	69～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0	0.00
	80～89	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.39	0	1	0.39
	90～93	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	計	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.07	1	1	0.07

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

c 被爆状況別に見た乳癌・子宮癌発見率

(単位:人)

乳がん 検診	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳 癌 症 例		
				% ¹		% ²	発見率% ³	推定発見率% ⁴	
	2.0km以内直接被爆群	382	17	4.5	17	100.0	7	1.83	1.83
	2.1km以上直接被爆群	569	19	3.3	18	94.7	7	1.23	1.30
	入 市 ・ 他 群	828	30	3.6	29	96.7	3	0.36	0.37
	計	1,779	66	3.7	64	97.0	17	0.96	0.99

子宮 がん 検診	被 曝 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子 宮 癌 症 例		
				% ¹		% ²	発見率% ³	推定発見率% ⁴	
	2.0km以内直接被爆群	280	0	0.0	0	0.0	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	425	0	0.0	0	0.0	0	0.00	0.00
	入 市 ・ 他 群	655	2	0.3	2	100.0	0	0.00	0.00
	計	1,360	2	0.1	2	100.0	0	0.00	0.00

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100³ 発見率: 症例数/受診者数×100⁴ 推定発見率: 発見率/精検実施率×100

(I) 多発性骨髄腫検診

多発性骨髄腫検診の受診者は 11,253 人であり、その内訳は男性 5,085 人、女性 6,168 人で、要精検率はそれぞれ 6.7%、4.6%で全体では 5.6%である(表 9 a)。また、精検実施率はそれぞれ 100.0%、99.3%、99.7%である。精検結果は表 9 b のとおりで、有所見率は男性 4.37%、女性 2.63%、計 3.41%である。その内訳で最も多くみられるのは前骨髄腫 1.44%で、ついで骨髄腫 0.90%、良性 M 蛋白血症 0.61%、マクログロブリン血症 0.46%の順である。

表 9 被爆者 多発性骨髄腫検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹	% ²	% ¹	% ²		% ⁰	% ⁰	% ⁰	% ⁰		% ¹	% ¹	% ²	% ²
69～79	3,272	185	5.7	185	100.0	3,791	125	3.3	124	99.2	7,063	310	4.4	309	99.7
80～89	1,719	148	8.6	148	100.0	2,100	132	6.3	132	100.0	3,819	280	7.3	280	100.0
90～102	94	7	7.4	7	100.0	277	28	10.1	27	96.4	371	35	9.4	34	97.1
計	5,085	340	6.7	340	100.0	6,168	285	4.6	283	99.3	11,253	625	5.6	623	99.7

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見									有所見例数	
		骨髓腫		前骨髓腫		マクログロブリン血症		良性M蛋白血症		M蛋白		
			% ¹		% ¹		% ¹		% ¹	(-)		%
男性	69～79	31	0.95	48	1.47	21	0.64	19	0.58	66	119	3.64
	80～89	23	1.34	43	2.50	13	0.76	18	1.05	49	97	5.64
	90～102	0	0.00	1	1.06	2	2.13	3	3.19	1	6	6.38
	計	54	1.06	92	1.81	36	0.71	40	0.79	116	222	4.37
女性	69～79	20	0.53	23	0.61	7	0.18	16	0.42	56	66	1.74
	80～89	22	1.05	40	1.90	9	0.43	10	0.48	51	81	3.86
	90～102	5	1.81	7	2.53	0	0.00	3	1.08	12	15	5.42
	計	47	0.76	70	1.13	16	0.26	29	0.47	119	162	2.63
計	69～79	51	0.72	71	1.01	28	0.40	35	0.50	122	185	2.62
	80～89	45	1.18	83	2.17	22	0.58	28	0.73	100	178	4.66
	90～102	5	1.35	8	2.16	2	0.54	6	1.62	13	21	5.66
	計	101	0.90	162	1.44	52	0.46	69	0.61	235	384	3.41

¹ 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 被爆状況別に見た多発性骨髄腫発見率

(単位:人)

性	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		骨髄腫症例数		新規骨髄腫症例 ¹		
			% ²	% ³	% ³	% ⁴	% ⁴	% ⁴	発見率 ⁴		推定発見率 ⁵
									発見率 ⁴	推定発見率 ⁵	
男 性	2.0km以内直接被爆群	1,077	81	7.5	81	100.0	10	0.93	1	0.09	0.09
	2.1km以上直接被爆群	1,812	120	6.6	120	100.0	26	1.43	3	0.17	0.17
	入 市・他 群	2,196	139	6.3	139	100.0	18	0.82	5	0.23	0.23
	計	5,085	340	6.7	340	100.0	54	1.06	9	0.18	0.18
女 性	2.0km以内直接被爆群	1,315	61	4.6	61	100.0	9	0.68	2	0.15	0.15
	2.1km以上直接被爆群	2,103	89	4.2	88	98.9	17	0.81	3	0.14	0.14
	入 市・他 群	2,750	135	4.9	134	99.3	21	0.76	3	0.11	0.11
	計	6,168	285	4.6	283	99.3	47	0.76	8	0.13	0.13
計	2.0km以内直接被爆群	2,392	142	5.9	142	100.0	19	0.79	3	0.13	0.13
	2.1km以上直接被爆群	3,915	209	5.3	208	99.5	43	1.10	6	0.15	0.15
	入 市・他 群	4,946	274	5.5	273	99.6	39	0.79	8	0.16	0.16
	計	11,253	625	5.6	623	99.7	101	0.90	17	0.15	0.15

¹ 今年度新たに発見された症例数

² 要精検率: 要精検者数/受診者 × 100

³ 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

⁴ 発見率: 症例数/受診者数 × 100

⁵ 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

骨髄腫症例は男性 54 例(1.06%)、女性 47 例(0.76%)、計 101 例(0.90%)である。そのうち、今年度新たに発見された症例は、表 9 c に示すとおり、男性 9 例(0.18%)、女性 8 例(0.13%)、計 17 例(0.15%)で、推定発見率はそれぞれ 0.18%、0.13%、0.15%である。被爆状況別の多発性骨髄腫発見率には、一定の傾向は見られない。

(オ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者数の内訳は表 10 a に示すとおりである。男性 2,943 人、女性 3,402 人、計 6,345 人であり、要精検率はそれぞれ 7.9%、6.7%、7.2%である。精検実施率は、男性 71.7%、女性 60.4%、全体で 66.1%である。

精検結果は表 10 b のとおり、最も多いのは腺腫 1.39%、非腫瘍性ポリープ 0.98%、大腸憩室 0.72%、大腸癌 0.32%の順である。

平成 28 年度新たに発見された大腸癌症例は表 10 c のとおり男性 7 例、女性 13 例、計 20 例、発見率はそれぞれ 0.24%、0.38%、0.32%であり、推定発見率は 0.33%、0.63%、0.48%である。被爆状況別の大腸癌発見率には、一定の傾向が見られない。

表 10 被爆者 大腸がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

（単位：人）															
年齢 （歳）	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		%	%	%	%		%	%	%	%					
69～79	1,887	146	7.7	108	74.0	2,047	103	5.0	76	73.8	3,934	249	6.3	184	73.9
80～89	1,003	79	7.9	56	70.9	1,190	102	8.6	56	54.9	2,193	181	8.3	112	61.9
90～102	53	8	15.1	3	37.5	165	22	13.3	5	22.7	218	30	13.8	8	26.7
計	2,943	233	7.9	167	71.7	3,402	227	6.7	137	60.4	6,345	460	7.2	304	66.1

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

		精 検 所 見												有所見例数		
性	年齢 (歳)	大 腸 癌		腺 腫		非腫瘍性ポリープ		潰瘍性大腸炎		大腸憩室		その他		正常		
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹	
男 性	69～79	7	0.37	39	2.07	27	1.43	0	0.00	9	0.48	29	1.54	14	111	5.88
	80～89	0	0.00	17	1.69	14	1.40	0	0.00	14	1.40	16	1.60	9	61	6.08
	90～102	0	0.00	0	0.00	1	1.89	0	0.00	1	1.89	0	0.00	1	2	3.77
	計	7	0.24	56	1.90	42	1.43	0	0.00	24	0.82	45	1.53	24	174	5.91
女 性	69～79	8	0.39	20	0.98	14	0.68	0	0.00	8	0.39	20	0.98	14	70	3.42
	80～89	5	0.42	11	0.92	6	0.50	0	0.00	14	1.18	14	1.18	14	50	4.20
	90～102	0	0.00	1	0.61	0	0.00	1	0.61	0	0.00	1	0.61	2	3	1.82
	計	13	0.38	32	0.94	20	0.59	1	0.03	22	0.65	35	1.03	30	123	3.62
計	69～79	15	0.38	59	1.50	41	1.04	0	0.00	17	0.43	49	1.25	28	181	4.60
	80～89	5	0.23	28	1.28	20	0.91	0	0.00	28	1.28	30	1.37	23	111	5.06
	90～102	0	0.00	1	0.46	1	0.46	1	0.46	1	0.46	1	0.46	3	5	2.29
	計	20	0.32	88	1.39	62	0.98	1	0.02	46	0.72	80	1.26	54	297	4.68

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

c 被爆状況別に見た大腸癌発見率

(単位:人)

性	被爆状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大腸癌症例		
				% ¹		% ²		発見率% ³	推定発見率% ⁴
男性	2.0km以内直接被爆群	576	39	6.8	27	69.2	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	1,013	88	8.7	64	72.7	4	0.39	0.54
	入市・他群	1,354	106	7.8	76	71.7	3	0.22	0.31
	計	2,943	233	7.9	167	71.7	7	0.24	0.33
女性	2.0km以内直接被爆群	737	41	5.6	21	51.2	2	0.27	0.53
	2.1km以上直接被爆群	1,107	83	7.5	47	56.6	3	0.27	0.48
	入市・他群	1,558	103	6.6	69	67.0	8	0.51	0.77
	計	3,402	227	6.7	137	60.4	13	0.38	0.63
計	2.0km以内直接被爆群	1,313	80	6.1	48	60.0	2	0.15	0.25
	2.1km以上直接被爆群	2,120	171	8.1	111	64.9	7	0.33	0.51
	入市・他群	2,912	209	7.2	145	69.4	11	0.38	0.54
	計	6,345	460	7.2	304	66.1	20	0.32	0.48

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数/受診者数×100

⁴ 推定発見率: 発見率/精検実施率×100

(カ) 被爆者がん検診別に見たがん発見率と陽性反応的中度

被爆者の5大がん(胃・肺・大腸・乳・子宮)検診別に見た発見率・陽性反応的中度を表11に示す。子宮頸癌発見率は0%であったが、胃癌・肺癌・大腸癌・乳癌の発見率は0.62%、0.19%、0.32%、0.96%、子宮癌を除く陽性反応的中度はそれぞれ5.15%、7.26%、4.35%、25.76%である。子宮がん以外のがん検診精度は良好と考える。

表11 被爆者 がん検診別に見た癌発見率と陽性反応的中度

(単位:人)

性	検査種	受診者数	要精検者数		精検実施者数		癌症例		
				% ¹		% ²		発見率% ³	陽性反応的中度% ⁴
男性	胃がん	1,307	177	13.5	172	97.2	10	0.77	5.65
	肺がん	4,150	119	2.9	112	94.1	10	0.24	8.40
	大腸がん	2,943	233	7.9	167	71.7	7	0.24	3.00
女性	胃がん	961	95	9.9	92	96.8	4	0.42	4.21
	肺がん	4,580	115	2.5	111	96.5	7	0.15	6.09
	大腸がん	3,402	227	6.7	137	60.4	13	0.38	5.73
	乳がん	1,779	66	3.7	64	97.0	17	0.96	25.76
	子宮がん	1,360	2	0.1	2	100.0	0	0.00	0.00
計	胃がん	2,268	272	12.0	264	97.1	14	0.62	5.15
	肺がん	8,730	234	2.7	223	95.3	17	0.19	7.26
	大腸がん	6,345	460	7.2	304	66.1	20	0.32	4.35
	乳がん	1,779	66	3.7	64	97.0	17	0.96	25.76
	子宮がん	1,360	2	0.1	2	100.0	0	0.00	0.00

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応的中度: 症例数/要精検者数×100

(キ) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、高齢化に伴う寝たきり被爆者が増加している現状に鑑み、その要因の一つである骨折を予防し、寝たきりを防止するために、広島市独自の施策として平成7年4月より実施されている。今年度の受診者の内訳は表12aに示すとおりで男性1,861人、女性1,994人、計3,855人である。

骨量の「減少あり」と判定された有所見率は男性15.1%、女性48.3%、計32.3%である。女性には男性に比して高率であった。被爆状況別にみた結果を表12bに示すが、男女とも被爆状況別には一定の傾向は認められない。

表12 被爆者 骨粗鬆症検診

a 受診者数および結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				計
				軽度	中等度	高度		
								% ¹
男性	69～79	1,360	1,017	127	49	11	187	13.8
	80～89	484	333	62	19	9	90	18.6
	90～101	17	12	2	1	1	4	23.5
	計	1,861	1,362	191	69	21	281	15.1
女性	69～79	1,521	698	403	217	92	712	46.8
	80～89	446	176	105	77	54	236	52.9
	90～101	27	10	3	6	6	15	55.6
	計	1,994	884	511	300	152	963	48.3
計	69～79	2,881	1,715	530	266	103	899	31.2
	80～89	930	509	167	96	63	326	35.1
	90～101	44	22	5	7	7	19	43.2
	計	3,855	2,246	702	369	173	1,244	32.3

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

判定不能 365人(男218人, 女147人)

b 被爆状況別に見た骨密度測定結果

(単位:人)

性	被爆状況	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				計
				軽度	中等度	高度		
								% ¹
男性	2.0km以内直接被爆群	404	285	50	17	6	73	18.1
	2.1km以上直接被爆群	674	509	63	16	7	86	12.8
	入市・他群	783	568	78	36	8	122	15.6
	計	1,861	1,362	191	69	21	281	15.1
女性	2.0km以内直接被爆群	437	220	95	57	44	196	44.9
	2.1km以上直接被爆群	689	303	177	99	46	322	46.7
	入市・他群	868	361	239	144	62	445	51.3
	計	1,994	884	511	300	152	963	48.3
計	2.0km以内直接被爆群	841	505	145	74	50	269	32.0
	2.1km以上直接被爆群	1,363	812	240	115	53	408	29.9
	入市・他群	1,651	929	317	180	70	567	34.3
	計	3,855	2,246	702	369	173	1,244	32.3

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

オ 原爆被爆者二世健康診断の実施

原爆被爆者二世の健康面での不安を除く等のために、昭和 48 年度から、広島市の事業として委託を受けて健康診断を開始し、昭和 54 年度からは、財団法人日本公衆衛生協会の事業（国が協会に委託している事業）、平成 13 年度からは国が広島県・広島市に委託している健康診断事業を実施し、平成 2 年度からは東京都の健康診断事業もあわせて委託を受けて行っている。

なお、平成 28 年度からは多発性骨髄腫検査も実施している。

健康診断は、被爆者の場合と同様に一般検査と精密検査になっている。

原爆被爆者二世健康診断の実施状況は表 13 のとおりである。

表 13 原爆被爆者二世健康診断実施状況

(単位：件，%)

年 度	一般検査	精密検査	精検実施率
昭和 48	578	580	100.3
49	109	110	100.9
50	82	83	101.2
51	51	51	100.0
52	131	129	98.5
53	124	126	101.6
54	1,942	1,768	91.0
55	1,041	626	60.1
56	854	494	57.8
57	995	572	57.5
58	1,152	663	57.6
59	1,551	853	55.0
60	1,798	1,072	59.6
61	1,967	1,155	58.7
62	2,250	1,314	58.4
63	2,780	1,551	55.8
平成元	2,417	1,161	48.0
2	2,078	1,127	54.2
3	2,132	1,219	57.2
4	2,309	1,520	65.8
5	2,508	1,610	64.2
6	2,297	1,698	73.9
7	2,391	1,936	81.0

年 度	一般検査	精密検査	精検実施率
8	2,475	2,138	86.4
9	2,867	2,309	80.5
10	2,786	2,796	100.4
11	3,201	3,202	100.0
12	3,711	3,711	100.0
13	3,762	3,762	100.0
14	2,919	2,919	100.0
15	3,150	3,150	100.0
16	2,483	2,483	100.0
17	2,678	2,678	100.0
18	2,497	2,497	100.0
19	2,477	2,477	100.0
20	2,428	2,428	100.0
21	2,565	2,565	100.0
22	2,486	2,486	100.0
23	2,344	2,344	100.0
24	2,525	2,525	100.0
25	2,432	2,432	100.0
26	2,489	2,489	100.0
27	2,452	2,452	100.0
28	2,487	2,487	100.0
29	2,362	2,362	100.0

カ 健康管理の推進

(7) 悪性新生物の早期発見

広島大学大学院医歯薬保健学研究院、同原爆放射線医科学研究所、(公財)放射線影響研究所等の協力を得て、胃がん・肺がん・肝臓がん・甲状腺がん・乳がん・子宮がん・白血病・多発性骨髄腫・大腸がん等の悪性新生物の早期発見に努めた。

(イ) 生活習慣病の早期発見と指導

増加傾向にある糖尿病・動脈硬化症・高血圧等の生活習慣病の早期発見に努めるとともに、必要に応じて適切な保健指導及び栄養指導を行った。

キ 健康診断医療機器等の整備

- ・内視鏡スコープ（経口用 1 本・経鼻用 1 本）を増設した。

ク 被爆者健康管理資料の整備

受診者に関する健診資料（カルテ、心電図所見等）を分類整理し保存するとともに、これら健康診断の実績、結果等について諸統計を作成し、調査研究資料として整備した。

ケ 黒い雨体験者相談・支援事業の補助

広島県・広島市が国からの受託事業として実施する黒い雨体験者に対する医師・臨床心理士・保健師による相談・支援事業について、医師等の派遣調整、相談会の日程調整及び会場の確保、会議録の作成、本人情報や相談記録等のデータベース化などの業務を実施した。

(2) 高齢者医療確保法・健康増進法等による健康診査等

ア 健康診査等の実施

広島市総合健康センターへ移転した平成元年 9 月から、住民の健康管理を推進するため、広島市の委託を受け、高齢者医療確保法に基づく特定健康診査、健康増進法に基づくがん検診、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく健康診断等を実施している。その概要は表 1、検査項目は表 2、実施状況は表 3 のとおりである。

表 1 検診内容・検診区域の推移

検診会場 検診項目	施設検診	出張検診			
		中区・東区・南区・ 西区・佐伯区	安芸区	安佐南区	安佐北区
老健法基本健康診査	元. 9～20.3	2. 4～20.3		10. 4～20.3*	10. 4～20.3*◇
特定健康診査・健康診査	20.5～	20.5～	27.4～△	20.5～*	20.5～*
胃がん検診	元. 9～	2. 4～	4. 4～	5. 4～	
肺がん検診		8. 4～			
乳がん検診		2. 4～	4. 4～	5. 4～	
子宮がん検診					
大腸がん検診	4. 11～	4. 11～	27.4～△	10. 4～*	10. 4～*◇
結核健診	元. 9～	2. 4～			
骨粗鬆症検診	7. 10～				
マンモグラフィ検診	9. 4～17.3 [◎]				
C型・B型肝炎ウイルス検査	10. 10～	10. 10～		10. 10～*	10. 10～*◇

「元. 9～」等は、検診開始年月

* 日曜検診及び平成 28 年～5 大がん検診会場（安佐医師会館を除く）

◇ 白木町は平成 2 年 4 月から 13 年 3 月まで実施

△ 5 大がん検診会場の一部で実施

◎ 平成 17 年度から、乳がん検診に乳房 X 線検査（マンモグラフィ）が必須項目

表 2 健診種別及び検査項目（平成 29 年度）

種 別		対 象 者（広島市内在住者）	検 査 項 目
特定健康診査		40 歳以上 75 歳未満(被爆者含む)[年度内に 40 歳になる 39 歳の方は受診可]	必須検査：身体測定・血圧測定・尿検査・ 血中脂質検査・肝機能検査・ 腎機能検査・血糖検査・ 尿酸検査・貧血検査・診察 詳細項目：心電図・眼底検査 (医師の判断により実施)
健康診査	医療保険 未加入者	上記年齢者の医療保険未加入者	
	後期高齢者医 療被保険者	75 歳以上の方	
がん検診	胃がん検診	X 線検査については年度内に 40 歳以上の年齢に達する方 内視鏡検査については年度内に 50 歳以上の年齢に達する方、2 年に 1 回	胃部 X 線撮影 胃内視鏡検査
	肺がん検診	年度内に 40 歳以上の年齢に達する方	胸部 X 線撮影、喀痰細胞診検査
	乳がん検診	年度内に 40 歳以上の年齢に達する女性、2 年に 1 回	マンモグラフィによる画像診断
	子宮がん検診	20 歳以上の女性、2 年に 1 回	視診、内診、細胞診(頸部)
	大腸がん検診	年度内に 40 歳以上の年齢に達する方	便潜血二日法
結核健康診断		65 歳以上の方[年度内に 65 歳になる 64 歳の方は受診可]	胸部 X 線撮影
骨粗鬆症検診		女性：20 歳から 5 歳間隔の年齢の方 男性：40 歳から 5 歳間隔の年齢の方	骨塩定量検査(超音波方式)
C 型・B 型肝炎ウイルス検査 (緊急肝炎ウイルス検査)		各種健診等により肝炎ウイルス検査を受けたことのない、又は、受ける予定のない 20 歳以上の方	HCV 抗体検査 HBs 抗原検査
高齢者肺炎球菌ワクチン		65 歳から 100 歳までの 5 歳間隔の年齢の方	ワクチン接種
高齢者に対するインフルエンザ定期接種		満 65 歳以上の方	ワクチン接種

表 3 実施状況

(単位：件)

年 度	基本健康診査		が ん 検 診					結核定期 健康診断	骨粗鬆症 検 診	マンモグラフィ検 診	C型・B型肝炎 ウイルス検査
	必須検査	選択検査	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	大腸がん				
平成元	418	295	75	1	73	71	－	374	－	－	－
2	14,699	9,910	9,037	757	9,065	8,619	－	22,683	－	－	－
3	15,245	12,060	8,693	483	8,749	8,537	－	22,433	－	－	－
4	15,383	12,051	9,752	392	9,161	8,940	637	22,782	－	－	－
5	15,723	12,471	14,288	401	13,436	13,026	1,692	22,948	－	－	－
6	14,996	12,205	13,556	319	12,357	12,185	1,625	22,053	－	－	－
7	15,278	13,394	13,800	262	12,338	12,165	1,793	21,608	3,585	－	－
8	12,740	12,387	12,387	14,224	10,828	10,803	3,330	16,584	1,834	－	－
9	14,589	14,514	13,579	16,589	11,616	11,280	4,701	18,726	3,685	1,901	－
10	15,308	15,297	12,914	16,472	10,263	10,163	4,821	18,108	4,140	1,745	5,847
11	16,011	16,008	13,246	16,982	10,510	10,498	5,181	19,436	3,182	1,811	9,442
12	16,303	16,302	13,786	17,579	11,174	11,346	5,761	21,187	2,184	1,949	6,303
13	16,970	16,970	14,757	18,792	11,977	12,062	6,347	20,798	2,081	2,327	283
14	18,238	18,238	15,452	20,127	12,296	12,376	7,131	21,914	2,646	2,434	1,641
15	19,352	19,352	16,448	21,258	13,381	13,181	7,854	22,747	2,972	3,224	2,358
16	19,455	19,455	15,862	20,958	13,758	13,066	8,107	22,006	2,228	4,321	2,937
17	18,481	18,481	15,662	20,378	2,961	6,297	8,229	10,314	1,912		2,577
18	19,331	19,331	16,207	21,187	8,011	8,345	8,951	11,148	2,304		2,285
19	19,645	19,645	16,865	21,284	9,266	9,355	9,524	11,630	2,486		1,488
20	特定健康診査※1		17,062	17,496	8,686	8,976	8,978	10,400	1,589		651
	12,685										
21	14,519		17,718	20,116	11,116	10,623	10,542	12,222	1,911		435
22	13,239		17,153	18,905	10,027	9,793	10,086	11,387	2,072		107
23	13,713		16,477	19,080	10,636	10,025	14,325	11,175	2,147		111
24	16,313		17,033	20,276	10,604	9,724	15,461	12,114	3,090		411
25	16,234		16,240	20,499	10,758	9,714	14,230	12,736	2,857		11,885※2
26	18,196		15,887	23,965	8,816	7,073	18,822	14,117	3,346		9,974
27	18,123		15,830	23,409	9,698	7,475	19,695	13,924	3,009		9,705
28	18,136		14,614	22,768	8,646	6,846	18,223	14,061	2,792		6,808
29	18,505		15,386※3	23,312	8,392	6,879	17,911	14,654	3,301		7,580

※1 特定健康診査は、医療保険未加入者の健康診査・後期高齢者の健康診査を含む。

※2 C型・B型肝炎ウイルス検査は、平成25年度から緊急肝炎ウイルス検査事業（無料）による件数である。

※3 胃がん検診のうち胃内視鏡検査の実施数 2,837 件（内数）

イ 平成 29 年度健康診査実施状況

平成 29 年度の健康診査等の受診者数は、表 4 a に示すように男性 8,173 人、女性 10,332 人、計 18,505 人であった。年齢別にみると、男女とも 60 歳代と 70 歳代が多かった。区別の受診者数では、西区が 15.4% と最も多く、ついで南区が 15.1%、佐伯区が 14.5%、中区、東区が 13% 台であった(表 4 b)。

表 4 健康診査等

a 受診者数（被爆者 1,608 人含む）

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
39 ～ 49	699	8.6	749	7.2	1,448	7.8
50 ～ 59	484	5.9	713	6.9	1,197	6.5
60 ～ 69	2,387	29.2	3,647	35.3	6,034	32.6
70 ～ 79	3,685	45.1	4,359	42.2	8,044	43.5
80 ～ 99	918	11.2	864	8.4	1,782	9.6
計	8,173	100.0	10,332	100.0	18,505	100.0

b 区別にみた受診者数

(単位：人)

区 分	男 性		女 性		計	
		%		%		%
中 区	1,001	12.2	1,554	15.0	2,555	13.7
東 区	1,097	13.4	1,379	13.3	2,476	13.4
南 区	1,195	14.6	1,594	15.4	2,789	15.1
西 区	1,272	15.6	1,586	15.4	2,858	15.4
安佐南区	1,034	12.7	1,236	12.0	2,270	12.3
安佐北区	893	10.9	960	9.3	1,853	10.0
安 芸 区	484	5.9	546	5.3	1,030	5.6
佐 伯 区	1,197	14.7	1,477	14.3	2,674	14.5
計	8,173	100.0	10,332	100.0	18,505	100.0

ウ 平成 28 年度がん検診等実施状況

(7) 胃がん検診

胃がん検診の受診者は表 5 a に示すとおり、男性 5,990 人、女性 8,624 人、計 14,614 人である。要精検率は男性 9.3%、女性 6.1%、計 7.4%、精検実施率はそれぞれ 88.3%、92.3%、90.3% である。要精検率は女性に比し男性はやや高率である。(全体で見ると、高齢になるほど高率となる。)

精検結果は表 5 b のとおり、有所見率は男性 9.67%、女性 6.28%、計 7.67% であり、男性が女性に比し高率である。

主な所見の内訳は、胃ポリープが 0.83% と最も多く、ついで胃潰瘍が 0.58%、胃癌は 0.18%、胃腺腫 0.03%、食道癌などの胃以外の悪性腫瘍 0.03%、非上皮性悪性腫瘍 0.00% である。

今年度新たに発見された胃癌症例は表 5 c に示すとおりである。胃癌症例(胃癌と胃非上皮性悪性腫瘍の合計)は、男性で 16 例、女性では 11 例、計 27 例である。胃癌発見率は男性 0.27% 女性 0.13%、計 0.18%、陽性反応的中度はそれぞれ 2.88%、2.11%、2.51% である。厚生労働省の平成 27 年度地域保健・健康増進事業報告の全国集計の胃癌発見率 0.09%、陽性反応的中度 1.28% に比し胃癌発見率、陽性反応的中度ともに約 2 倍高率で、当センターの胃がん検診の精度は非常に良好と考える。

表 5 胃がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位：人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹	% ²	% ¹	% ²		% ¹	% ²	% ¹	% ²					
39～49	895	42	4.7	37	88.1	2,218	90	4.1	82	91.1	3,113	132	4.2	119	90.2
50～59	515	46	8.9	40	87.0	1,328	60	4.5	52	86.7	1,843	106	5.8	92	86.8
60～69	2,232	228	10.2	195	85.5	2,965	193	6.5	179	92.7	5,197	421	8.1	374	88.8
70～79	1,964	194	9.9	177	91.2	1,854	155	8.4	149	96.1	3,818	349	9.1	326	93.4
80～93	384	45	11.7	41	91.1	259	24	9.3	20	83.3	643	69	10.7	61	88.4
計	5,990	555	9.3	490	88.3	8,624	522	6.1	482	92.3	14,614	1,077	7.4	972	90.3

¹ 要精検率：要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率：精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性		精 検 所 見															有所見例数	
年齢 (歳)	胃 癌		胃非上皮性悪性腫瘍		胃以外の悪性腫瘍		胃腺腫		胃ポリープ		胃潰瘍		その他		正常		%	
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹				
男性	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.22	3	0.34	38	4.25	5	43	4.80
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.39	3	0.58	37	7.18	8	42	8.16
	60～69	9	0.40	0	0.00	2	0.09	0	0.00	26	1.16	29	1.30	162	7.26	22	228	10.22
	70～79	6	0.31	0	0.00	1	0.05	3	0.15	17	0.87	16	0.81	177	9.01	11	220	11.20
	80～93	1	0.26	0	0.00	0	0.00	0	0.00	5	1.30	6	1.56	34	8.85	6	46	11.98
	計	16	0.27	0	0.00	3	0.05	3	0.05	52	0.87	57	0.95	448	7.48	52	579	9.67
女性	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	11	0.50	3	0.14	79	3.56	9	93	4.19
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	8	0.60	3	0.23	38	2.86	10	49	3.69
	60～69	6	0.20	0	0.00	1	0.03	2	0.07	29	0.98	14	0.47	154	5.19	17	206	6.95
	70～79	5	0.27	0	0.00	0	0.00	0	0.00	20	1.08	8	0.43	141	7.61	14	174	9.39
	80～93	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.77	0	0.00	18	6.95	2	20	7.72
	計	11	0.13	0	0.00	1	0.01	2	0.02	70	0.81	28	0.32	430	4.99	52	542	6.28
計	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	13	0.42	6	0.19	117	3.76	14	136	4.37
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	10	0.54	6	0.33	75	4.07	18	91	4.94
	60～69	15	0.29	0	0.00	3	0.06	2	0.04	55	1.06	43	0.83	316	6.08	39	434	8.35
	70～79	11	0.29	0	0.00	1	0.03	3	0.08	37	0.97	24	0.63	318	8.33	25	394	10.32
	80～93	1	0.16	0	0.00	0	0.00	0	0.00	7	1.09	6	0.93	52	8.09	8	66	10.26
	計	27	0.18	0	0.00	4	0.03	5	0.03	122	0.83	85	0.58	878	6.01	104	1121	7.67

¹ 有所見率: 有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た胃がん発見率

(単位:人)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率% ³	陽性反応的中度% ⁴
男性	施 設 検 診	4,014	331	8.2	296	89.4	8	0.20	2.42
	集 団 検 診	1,976	224	11.3	194	86.6	8	0.40	3.57
	計	5,990	555	9.3	490	88.3	16	0.27	2.88
女性	施 設 検 診	5,073	258	5.1	239	92.6	6	0.12	2.33
	集 団 検 診	3,551	264	7.4	243	92.0	5	0.14	1.89
	計	8,624	522	6.1	482	92.3	11	0.13	2.11
計	施 設 検 診	9,087	589	6.5	535	90.8	14	0.15	2.38
	集 団 検 診	5,527	488	8.8	437	89.5	13	0.24	2.66
	計	14,614	1,077	7.4	972	90.3	27	0.18	2.51
平成27年度全国		2,370,328	171,943	7.25		80.4	2,206	0.09	1.28

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数(食道癌を含む)/受診者数×100

⁴ 陽性反応的中度: 症例数/要精検者数×100

(イ) 肺がん検診

肺がん検診の受診者数は表 6 a に示すとおり、男性 9,130 人、女性 13,638 人、計 22,768 人である。要精検率は男性 2.2%、女性 1.7%、計 1.9%、精検実施率はそれぞれ 88.9%、94.8%、92.1%である。

精検結果は表 6 b のとおりで、有所見率は男性 1.53%、女性 1.22%、計 1.34%である。主な所見の内訳は、肺癌 0.09%、肺線維症 0.07%、肺炎 0.07%、非結核性抗酸菌感染症 0.03%、縦隔腫瘍 0.03%、活動性肺結核 0.01%の順である。

今年度新たに発見された肺癌症例は表 6 c に示すとおりである。肺癌症例は、男性 13 例、女性 8 例、計 21 例である。肺癌発見率は男性 0.14%、女性 0.06%、計 0.09%で、陽性反応的中度はそれぞれ 6.57%、3.46%、4.90%である。厚生労働省の平成 27 年度地域保健・健康増進事業報告の全国集計の肺癌発見率 0.04%、陽性反応的中度 2.41%に比し肺癌発見率、陽性反応的中度ともに約 2 倍高率で、当センター肺がん検診の精度は非常に良好と考える。

表6 肺がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²	
39～49	1,115	9	0.8	9	100.0	2,743	21	0.8	18	85.7	3,858	30	0.8	27	90.0
50～59	673	11	1.6	7	63.6	1,713	17	1.0	15	88.2	2,386	28	1.2	22	78.6
60～69	3,239	63	1.9	54	85.7	4,746	82	1.7	79	96.3	7,985	145	1.8	133	91.7
70～79	3,238	92	2.8	84	91.3	3,705	84	2.3	82	97.6	6,943	176	2.5	166	94.3
80～98	865	23	2.7	22	95.7	731	27	3.7	25	92.6	1,596	50	3.1	47	94.0
計	9,130	198	2.2	176	88.9	13,638	231	1.7	219	94.8	22,768	429	1.9	395	92.1

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100² 精検実施率:精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性	年 齢 (歳)	精 検 所 見														有所見例数		
		肺 癌		縦隔腫瘍		活動性肺結核		非結核性抗酸菌症		肺 炎		肺線維症		その他				正常
			% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹	
男 性	39～49	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.36	4	5	0.45
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	6	0.89	1	6	0.89
	60～69	6	0.19	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.12	2	0.06	31	0.96	11	43	1.33
	70～79	5	0.15	2	0.06	0	0.00	2	0.06	5	0.15	6	0.19	48	1.48	16	68	2.10
	80～98	1	0.12	0	0.00	0	0.00	1	0.12	1	0.12	2	0.23	13	1.50	4	18	2.08
	計	13	0.14	2	0.02	0	0.00	3	0.03	10	0.11	10	0.11	102	1.12	36	140	1.53
女 性	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.07	0	0.00	5	0.18	11	7	0.26
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	11	0.64	4	11	0.64
	60～69	5	0.11	0	0.00	0	0.00	1	0.02	3	0.06	5	0.11	48	1.01	17	62	1.31
	70～79	2	0.05	2	0.05	0	0.00	2	0.05	2	0.05	1	0.03	58	1.57	15	67	1.81
	80～98	1	0.14	2	0.27	1	0.14	1	0.14	0	0.00	1	0.14	13	1.78	6	19	2.60
	計	8	0.06	4	0.03	1	0.01	4	0.03	7	0.05	7	0.05	135	0.99	53	166	1.22
計	39～49	1	0.03	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.05	0	0.00	9	0.23	15	12	0.31
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	17	0.71	5	17	0.71
	60～69	11	0.14	0	0.00	0	0.00	1	0.01	7	0.09	7	0.09	79	0.99	28	105	1.31
	70～79	7	0.10	4	0.06	0	0.00	4	0.06	7	0.10	7	0.10	106	1.53	31	135	1.94
	80～98	2	0.13	2	0.13	1	0.06	2	0.13	1	0.06	3	0.19	26	1.63	10	37	2.32
	計	21	0.09	6	0.03	1	0.01	7	0.03	17	0.07	17	0.07	237	1.04	89	306	1.34

¹ 有所見率:有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た肺癌発見率

(単位:人)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肺 癌 症 例		
			% ¹		% ²		発見率% ³	陽性反応の中度% ⁴	
男性	施設検診	5,708	126	2.2	112	88.9	9	0.16	7.14
	集団検診	3,422	72	2.1	64	88.9	4	0.12	5.56
	計	9,130	198	2.2	176	88.9	13	0.14	6.57
女性	施設検診	7,961	129	1.6	123	95.3	7	0.09	5.43
	集団検診	5,677	102	1.8	96	94.1	1	0.02	0.98
	計	13,638	231	1.7	219	94.8	8	0.06	3.46
計	施設検診	13,669	255	1.9	235	92.2	16	0.12	6.27
	集団検診	9,099	174	1.9	160	92.0	5	0.05	2.87
	計	22,768	429	1.9	395	92.1	21	0.09	4.90
平成27年度全国		4,195,477	63,272	1.51		83.1	1,527	0.04	2.41

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100³ 発見率:症例数/受診者数×100⁴ 陽性反応の中度:症例数/要精検者数×100

(ウ) 乳がん検診

乳がん検診は、平成 17 年 4 月より、問診、視診、触診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)を 40 歳以上の対象者に 2 年に 1 回行うこととなった。乳がん検診の受診者数は表 7 a に示すとおり、8,646 人、要精検率 4.9%、精検実施率は 96.7%である。

精検結果を表 7 b に示す。乳がん検診全体での有所見率は 3.26%で、内訳は乳腺症 1.28%、線維腺腫 0.59%、乳癌 0.43%の順である。

表 7 c に示すとおり今年度新たに発見された乳癌は 37 例、乳癌発見率は 0.43%、陽性反応的中度は 8.67%である。厚生労働省の平成 27 年度地域保健・健康増進事業報告の全国集計の乳癌発見率 0.33%、陽性反応的中度 4.05%に比べて乳癌発見率で約 1.3 倍、陽性反応的中度で約 2 倍高率で当センターの乳がん検診精度は非常に良好と考える。

検診状況別の乳癌発見率は施設検診 0.56%、集団検診 0.26%である。

表 7 乳がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢 (歳)	乳がん検診				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% ¹		% ²
39～49	2,419	147	6.1	143	97.3
50～59	1,334	83	6.2	81	97.6
60～69	2,834	122	4.3	120	98.4
70～79	1,782	65	3.6	60	92.3
80～84	277	10	3.6	9	90.0
計	8,646	427	4.9	413	96.7

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

年齢 (歳)	精 検 所 見											有所見例数	
	乳 癌		線維腺腫		乳腺症		乳頭腫		その他		正常		
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
39～49	6	0.25	21	0.87	44	1.82	0	0.00	37	1.53	35	108	4.46
50～59	7	0.52	18	1.35	24	1.80	0	0.00	11	0.82	21	60	4.50
60～69	18	0.64	8	0.28	24	0.85	0	0.00	25	0.88	45	75	2.65
70～79	5	0.28	4	0.22	18	1.01	0	0.00	6	0.34	27	33	1.85
80～84	1	0.36	0	0.00	1	0.36	0	0.00	4	1.44	3	6	2.17
計	37	0.43	51	0.59	111	1.28	0	0.00	83	0.96	131	282	3.26

¹ 有所見率:有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た乳癌発見率

(単位:人)

検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳 癌 症 例		
			% ¹		% ²			
						発見率% ³	陽性反応的中度% ⁴	
施 設 検 診	4,831	262	5.4	259	98.9	27	0.56	10.31
集 団 検 診	3,815	165	4.3	154	93.3	10	0.26	6.06
計	8,646	427	4.9	413	96.7	37	0.43	8.67
平成27度全国	2,119,473	169,377	7.99		87.2	7,024	0.33	4.05

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応的中度:症例数/要精検者数×100

(I) 子宮がん検診

子宮がん検診の対象者は20歳以上で、2年に1回受診することができる。表8 aに示すとおり、子宮がん検診の受診者は6,846人で、要精検率は1.2%、精検実施率は97.6%である。

精検結果を表8 bに示す。有所見率は1.10%で、中・高度異型上皮0.42%、軽度異型上皮0.42%、子宮頸癌0.03%、子宮頸癌以外の悪性腫瘍0.03%の順である。

表8 cに示すとおり今年度新たに発見された子宮頸癌は2例、子宮頸癌発見率0.03%、陽性反応的中度は2.35%である。厚生労働省の平成27年度地域保健・健康増進事業報告の子宮頸癌発見率0.04%、陽性反応的中度1.81%に比べて子宮頸癌発見率は同等で、陽性反応的中度で約1.3倍高率で当センターの子宮がん検診精度は良好と考える。

検診状況別の子宮癌発見率は、施設検診0.03%、集団検診0.03%である。

表8 子宮がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% ¹		% ²
20～29	102	3	2.9	3	100.0
30～39	344	8	2.3	8	100.0
40～49	1,563	37	2.4	37	100.0
50～59	1,006	10	1.0	8	80.0
60～69	2,225	19	0.9	19	100.0
70～79	1,393	8	0.6	8	100.0
80～95	213	0	0.0	0	0.0
計	6,846	85	1.2	83	97.6

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

精 検 所 見														有所見例数
年齢 (歳)	子宮頸癌		子宮頸癌以外の悪性腫瘍		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他		正常			
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹				
20～29	0	0.00	0	0.00	3	2.94	1	0.98	0	0.00	0	4	3.92	
30～39	0	0.00	0	0.00	1	0.29	5	1.45	1	0.29	1	7	2.03	
40～49	1	0.06	0	0.00	15	0.96	11	0.70	6	0.38	7	33	2.11	
50～59	0	0.00	0	0.00	3	0.30	6	0.60	0	0.00	3	9	0.89	
60～69	1	0.04	0	0.00	5	0.22	6	0.27	3	0.13	5	15	0.67	
70～79	0	0.00	2	0.14	2	0.14	0	0.00	3	0.22	1	7	0.50	
80～95	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00	
計	2	0.03	2	0.03	29	0.42	29	0.42	13	0.19	17	75	1.10	

¹ 有所見率:有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た子宮癌発見率

(単位:人)

検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子 宮 癌 症 例		
			% ¹		% ²	発見率% ³	陽性反応的中度% ⁴	
施 設 検 診	3,622	52	1.4	51	98.1	1	0.03	1.92
集 団 検 診	3,224	33	1.0	32	97.0	1	0.03	3.03
計	6,846	85	1.2	83	97.6	2	0.03	2.35
平成27年度全国	3,914,800	85,434	2.18		74.3	1,544	0.04	1.81

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応的中度:症例数/要精検者数×100

(オ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者の内訳は表 9 a に示すとおり、男性 7,172 人、女性 11,051 人、計 18,223 人である。要精検率は男性 13.2%、女性 9.9%、計 11.2%、精検実施率はそれぞれ 83.6%、86.8%、85.3%である。

精検結果は表 9 b に示すとおり、有所見率は男性 9.82%、女性 5.81%、計 7.39%である。主な所見の内訳は、腺腫 2.63%、大腸憩室 0.98%、非腫瘍性ポリープ 0.67%、大腸癌 0.38%、潰瘍性大腸炎 0.03%、大腸癌以外の悪性腫瘍 0.01%の順である。

表 9 c のとおり今年度新たに発見された大腸癌症例(大腸癌と大腸癌以外の大腸悪性腫瘍の合計)は男性 41 例、女性 29 例、計 70 例である。大腸癌発見率は男性 0.57%、女性 0.26%、計 0.38%、陽性反応的中度はそれぞれ 4.32%、2.66%、3.43%である。厚生労働省の平成 27 年度地域保健・健康増進事業報告の全国集計の大腸癌発見率 0.19%、陽性反応的中度 2.90%に比し大腸癌発見率は約2倍高率で陽性反応的中度は1.2倍高率で当センターの大腸がん検診精度は非常に良好と考える。

表 9 大腸がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹	% ²	% ²	% ²		% ¹	% ²	% ²	% ²		% ¹	% ²	% ²	% ²
39～49	971	82	8.4	61	74.4	2,542	209	8.2	166	79.4	3,513	291	8.3	227	78.0
50～59	601	65	10.8	52	80.0	1,708	123	7.2	102	82.9	2,309	188	8.1	154	81.9
60～69	2,679	339	12.7	288	85.0	3,815	361	9.5	327	90.6	6,494	700	10.8	615	87.9
70～79	2,350	344	14.6	292	84.9	2,515	323	12.8	289	89.5	4,865	667	13.7	581	87.1
80～95	571	118	20.7	100	84.7	471	76	16.1	64	84.2	1,042	194	18.6	164	84.5
計	7,172	948	13.2	793	83.6	11,051	1,092	9.9	948	86.8	18,223	2,040	11.2	1,741	85.3

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見															有所見例数	
		大腸癌		大腸癌以外の悪性腫瘍		腺 腫		非腫瘍性ポリープ		潰瘍性大腸炎		大腸憩室		その他		正常		
		% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹		% ¹	% ¹
男性	39～49	1	0.10	0	0.00	15	1.54	4	0.41	1	0.10	6	0.62	19	1.96	22	46	4.74
	50～59	3	0.50	1	0.17	16	2.66	6	1.00	2	0.33	2	0.33	16	2.66	9	46	7.65
	60～69	18	0.67	0	0.00	105	3.92	20	0.75	0	0.00	41	1.53	66	2.46	61	250	9.33
	70～79	16	0.68	0	0.00	113	4.81	20	0.85	0	0.00	49	2.09	74	3.15	50	272	11.57
	80～95	3	0.53	0	0.00	23	4.03	7	1.23	0	0.00	17	2.98	40	7.01	17	90	15.76
	計	41	0.57	1	0.01	272	3.79	57	0.79	3	0.04	115	1.60	215	3.00	159	704	9.82
女性	39～49	4	0.16	0	0.00	23	0.90	13	0.51	1	0.04	6	0.24	53	2.08	75	100	3.93
	50～59	3	0.18	0	0.00	23	1.35	9	0.53	0	0.00	4	0.23	25	1.46	44	64	3.75
	60～69	9	0.24	0	0.00	77	2.02	20	0.52	2	0.05	22	0.58	88	2.31	120	218	5.71
	70～79	11	0.44	0	0.00	71	2.82	18	0.72	0	0.00	25	0.99	87	3.46	86	212	8.43
	80～95	2	0.42	0	0.00	14	2.97	5	1.06	0	0.00	7	1.49	20	4.25	21	48	10.19
	計	29	0.26	0	0.00	208	1.88	65	0.59	3	0.03	64	0.58	273	2.47	346	642	5.81
計	39～49	5	0.14	0	0.00	38	1.08	17	0.48	2	0.06	12	0.34	72	2.05	97	146	4.16
	50～59	6	0.26	1	0.04	39	1.69	15	0.65	2	0.09	6	0.26	41	1.78	53	110	4.76
	60～69	27	0.42	0	0.00	182	2.80	40	0.62	2	0.03	63	0.97	154	2.37	181	468	7.21
	70～79	27	0.55	0	0.00	184	3.78	38	0.78	0	0.00	74	1.52	161	3.31	136	484	9.95
	80～95	5	0.48	0	0.00	37	3.55	12	1.15	0	0.00	24	2.30	60	5.76	38	138	13.24
	計	70	0.38	1	0.01	480	2.63	122	0.67	6	0.03	179	0.98	488	2.68	505	1,346	7.39

¹ 有所見率: 有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た大腸癌発見率

(単位:人)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大 腸 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率% ³	陽性反応の中度% ⁴
男性	施 設 検 診	5,224	662	12.7	567	85.6	33	0.63	4.98
	集 団 検 診	1,948	286	14.7	226	79.0	8	0.41	2.80
	計	7,172	948	13.2	793	83.6	41	0.57	4.32
女性	施 設 検 診	7,476	717	9.6	635	88.6	17	0.23	2.37
	集 団 検 診	3,575	375	10.5	313	83.5	12	0.34	3.20
	計	11,051	1,092	9.9	948	86.8	29	0.26	2.66
計	施 設 検 診	12,700	1,379	10.9	1,202	87.2	50	0.39	3.63
	集 団 検 診	5,523	661	12.0	539	81.5	20	0.36	3.03
	計	18,223	2,040	11.2	1,741	85.3	70	0.38	3.43
平成27年度全国		5,246,461	342,309	6.52		68.8	9,941	0.19	2.90

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応の中度:症例数/要精検者数×100

(カ) 悪性新生物症例

当センターではがん検診の一次検診だけでなく、消化管内視鏡・超音波・CT・MRI等の検査機器を使用しがん検診の精密検査医療機関としても機能しており、人間ドック受診者や他施設のがん検診受診者の中で要精検となった方々の精密検査も行っている。また健診で自他覚症状より精密検査を行い発見しえた癌症例もある。それらの症例を表 10 当センターで発見した悪性新生物症例(がん検診の一次検診のみの受診者は除く)として示す。

表 10 当センターで発見した悪性新生物症例（がん検診の一次検診のみの受診者を除く）

No.	年齢	性別	病 名	No.	年齢	性別	病 名
1	45	M	肺 癌	*47	80	M	胃 癌（早期）
2	67	M	肺 癌	*48	80	M	胃 癌（早期）
3	68	M	肺 癌	*49	82	M	胃 癌（早期）
*4	70	M	肺 癌	*50	83	M	胃 癌（早期）
*5	71	M	肺 癌	51	83	M	胃 癌（早期）
*6	72	M	肺 癌	*52	84	M	胃 癌（早期）
*7	74	M	肺 癌	*53	84	M	胃 癌（早期）
*8	74	M	肺 癌	54	67	F	胃 癌（早期）
*9	75	M	肺 癌	55	68	F	胃 癌（早期）
*10	76	M	肺 癌	*56	73	F	胃 癌（早期）
*11	77	M	肺 癌	*57	73	F	胃 癌（早期）
12	65	F	肺 癌	*58	74	F	胃 癌（早期）
13	67	F	肺 癌	*59	75	F	胃 癌（早期）
14	68	F	肺 癌	*60	78	F	胃 癌（早期）
15	68	F	肺 癌	61	68	M	胃 癌（進行）
16	72	F	肺 癌	62	70	M	胃 癌（進行）
*17	79	F	肺 癌	*63	78	F	胃 癌（進行）
*18	80	F	肺 癌	*64	81	M	胃 癌（進行）
*19	81	F	肺 癌	65	90	F	胃 癌（進行）
*20	83	F	肺 癌	72	61	M	胃がん（MALTリンパ腫）
21	61	F	転 移 性 肺 癌	73	63	M	胃 が ん（GIST）
22	63	M	肺 腺 癌	*66	72	M	食 道 癌（早期）
23	68	M	肺 腺 癌	67	74	M	食 道 癌（早期）
*24	72	M	肺 腺 癌	*68	77	M	食 道 癌（早期）
25	65	M	胸 膜 悪 性 中 皮 腫	*69	77	M	食 道 癌（早期）
26	57	M	胃 癌（早期）	70	68	M	食 道 癌（早期）
27	66	M	胃 癌（早期）	*71	74	M	食 道 表 在 が ん
28	67	M	胃 癌（早期）	74	59	M	結 腸 癌（早期）
29	68	M	胃 癌（早期）	*75	79	M	結 腸 癌（進行）
30	68	M	胃 癌（早期）	76	61	F	結 腸 癌（進行）
*31	70	M	胃 癌（早期）	*77	78	F	結 腸 癌（進行）
*32	71	M	胃 癌（早期）	*78	74	M	直 腸 癌（早期）
33	71	M	胃 癌（早期）	79	70	F	直 腸 癌（早期）
*34	72	M	胃 癌（早期）	80	72	F	直 腸 癌（早期）
35	72	M	胃 癌（早期）	81	79	F	直 腸 癌（進行）
*36	73	M	胃 癌（早期）	82	60	M	S 状 結 腸 癌（早期）
37	73	M	胃 癌（早期）	83	69	M	S 状 結 腸 癌（早期）
*38	74	M	胃 癌（早期）	84	79	M	S 状 結 腸 癌（早期）
39	74	M	胃 癌（早期）	85	67	F	S 状 結 腸 癌（早期）
40	75	M	胃 癌（早期）	86	70	F	S 状 結 腸 癌（早期）
41	75	M	胃 癌（早期）	87	66	M	S 状 結 腸 癌（進行）
*42	75	M	胃 癌（早期）	88	57	F	S 状 結 腸 癌（進行）
*43	77	M	胃 癌（早期）	89	61	F	S 状 結 腸 癌（進行）
*44	77	M	胃 癌（早期）	90	71	M	上 行 結 腸 癌（早期）
*45	79	M	胃 癌（早期）	91	75	F	上 行 結 腸 癌（早期）
*46	79	M	胃 癌（早期）	92	65	M	上 行 結 腸 癌（進行）

* 付きの番号の症例は被爆者

No.	年齢	性別	病 名
93	70	M	上 行 結 腸 癌（進 行）
*94	79	F	上 行 結 腸 癌（進 行）
*95	75	F	下 行 結 腸 癌（早 期）
*96	76	M	横 行 結 腸 癌（早 期）
*97	79	M	回 盲 部 癌（進 行）
98	64	M	大 腸 悪 性 腫 瘍
99	66	M	大 腸 悪 性 腫 瘍
100	70	M	大 腸 悪 性 腫 瘍
*101	70	M	大 腸 悪 性 腫 瘍
102	56	F	大 腸 悪 性 腫 瘍
*103	72	M	多 発 性 骨 髄 腫
*104	72	M	多 発 性 骨 髄 腫
*105	74	M	多 発 性 骨 髄 腫
*106	74	M	多 発 性 骨 髄 腫
*107	74	M	多 発 性 骨 髄 腫
*108	76	M	多 発 性 骨 髄 腫
*109	83	M	多 発 性 骨 髄 腫
*110	84	M	多 発 性 骨 髄 腫
*111	86	M	多 発 性 骨 髄 腫
*112	88	M	多 発 性 骨 髄 腫
*113	75	F	多 発 性 骨 髄 腫
*114	75	F	多 発 性 骨 髄 腫
*115	79	F	多 発 性 骨 髄 腫
*116	80	F	多 発 性 骨 髄 腫
*117	83	F	多 発 性 骨 髄 腫
*118	84	F	多 発 性 骨 髄 腫
*119	85	F	多 発 性 骨 髄 腫
*120	87	F	多 発 性 骨 髄 腫
121	41	F	乳 癌
122	43	F	乳 癌
123	52	F	乳 癌
124	53	F	乳 癌
125	56	F	乳 癌
126	57	F	乳 癌
127	59	F	乳 癌
128	61	F	乳 癌
129	62	F	乳 癌
130	63	F	乳 癌
131	64	F	乳 癌
132	65	F	乳 癌
133	65	F	乳 癌
134	66	F	乳 癌
135	67	F	乳 癌
136	68	F	乳 癌
137	68	F	乳 癌
138	68	F	乳 癌

No.	年齢	性別	病 名
139	68	F	乳 癌
140	69	F	乳 癌
141	69	F	乳 癌
142	70	F	乳 癌
*143	70	F	乳 癌
*144	70	F	乳 癌
145	71	F	乳 癌
*146	71	F	乳 癌
*147	71	F	乳 癌
148	72	F	乳 癌
149	72	F	乳 癌
*150	72	F	乳 癌
*151	72	F	乳 癌
*152	72	F	乳 癌
153	73	F	乳 癌
*154	73	F	乳 癌
*155	74	F	乳 癌
*156	74	F	乳 癌
*157	74	F	乳 癌
*158	74	F	乳 癌
*159	75	F	乳 癌
*160	75	F	乳 癌
161	77	F	乳 癌
*162	78	F	乳 癌
163	80	F	乳 癌
164	80	F	乳 癌
*165	81	F	乳 癌
*166	83	F	乳 癌
*167	85	F	乳 癌
168	68	M	甲 状 腺 癌
169	66	F	甲 状 腺 癌
170	68	F	甲 状 腺 癌
*171	73	F	甲 状 腺 癌
*172	75	F	甲 状 腺 癌
173	77	F	甲 状 腺 癌
174	68	M	慢 性 骨 髄 性 白 血 病
175	60	M	前 立 腺 癌
176	56	M	前 立 腺 癌
*177	73	M	前 立 腺 癌
178	77	M	前 立 腺 癌
179	72	M	腎 細 胞 癌
180	61	M	腎 癌
*181	86	M	右 腎 癌
*182	83	M	右 尿 管 癌
*183	83	M	膀 胱 癌
184	75	M	膀 胱 癌

* 付きの番号の症例は被爆者

(※) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、寝たきりの主要な原因として骨折が大きな比重を占めている現状に鑑み、その最大原因としての骨粗鬆症を早期発見・早期予防するために、広島市の独自の施策として平成7年10月より開始された(平成16年4月からの検診対象者は、男性では40歳以上、女性では20歳以上の5歳刻み)。

受診者の内訳は表11に示すとおりで、男性941人、女性1,853人、計2,794人であり、女性が多い。骨量の「異常あり」と判定された有所見率は、男性69.1%、女性74.6%、全体で72.7%と高率である。

表11 骨粗鬆症検診

(単位：人)

性	年 齢 (歳)	受診者数	測 定 結 果				
			異常なし	要指導	要精検査	計	% ¹
男 性	35・40・45	77	29	22	26	48	62.3
	50・55	57	24	15	18	33	57.9
	60・65	200	69	41	90	131	65.5
	70・75	483	145	124	214	338	70.0
	80・85・90・95	124	24	29	71	100	80.6
	計	941	291	231	419	650	69.1
女 性	35・40・45	289	202	65	22	87	30.1
	50・55	218	100	63	55	118	54.1
	60・65	563	103	159	301	460	81.7
	70・75	654	59	151	444	595	91.0
	80・85・90・95	129	7	18	104	122	94.6
	計	1,853	471	456	926	1,382	74.6
計	35・40・45	366	231	87	48	135	36.9
	50・55	275	124	78	73	151	54.9
	60・65	763	172	200	391	591	77.5
	70・75	1,137	204	275	658	933	82.1
	80・85・90・95	253	31	47	175	222	87.7
	計	2,794	762	687	1,345	2,032	72.7

¹ 所見率：「要指導」「要精検査」例数/受診者数×100

(注)平成27年度より、測定結果を「減少なし・軽度・中等度・高度」から変更

(7) 結核健康診断

結核健康診断は、平成元年9月から広島市の委託を受けて開始した。

受診者数は表12aのとおりで、男性6,714人、女性7,940人、計14,654人であり、年齢別には男性、女性とも70歳代が多い。区別の受診者数では、表12bに示すように、安佐北区が最も多く、ついで安佐南区、佐伯区、南区の順である。要精検率は表12cのとおり男性2.5%、女性2.1%、計2.3%である。

表12 結核健診

a 受診者数

年齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
64～69	2,594	38.6	3,496	44.0	6,090	41.6
70～79	3,254	48.5	3,712	46.8	6,966	47.5
80～98	866	12.9	732	9.2	1,598	10.9
計	6,714	100.0	7,940	100.0	14,654	100.0

b 区別にみた受診者数

(単位：人)

区 分	男 性		女 性		計	
		%		%		%
中 区	626	9.3	886	11.2	1,512	10.3
東 区	801	11.9	901	11.3	1,702	11.6
南 区	830	12.4	1,078	13.6	1,908	13.0
西 区	815	12.1	970	12.2	1,785	12.2
安 佐 南 区	1,038	15.5	1,208	15.2	2,246	15.3
安 佐 北 区	1,128	16.8	1,236	15.6	2,364	16.1
安 芸 区	585	8.7	623	7.8	1,208	8.3
佐 伯 区	891	13.3	1,038	13.1	1,929	13.2
計	6,714	100.0	7,940	100.0	14,654	100.0

c 要精検率

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数	
			%			%			%
64～69	2,594	47	1.8	3,496	57	1.6	6,090	104	1.7
70～79	3,254	95	2.9	3,712	84	2.3	6,966	179	2.6
80～98	866	23	2.7	732	28	3.8	1,598	51	3.2
計	6,714	165	2.5	7,940	169	2.1	14,654	334	2.3

エ 健康管理資料の整備

受診者に関する健診資料（カルテ・レントゲンフィルム・心電図等）を将来の活用に備え整理、保管した。

2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業

(1) 調査研究の継続実施

継続して下記の調査研究を行い、その成果は原子爆弾後障害研究会、関係各学会等のほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙等に発表した。

- ・被爆者がん検診の意義に関する研究
- ・被爆者の糖代謝に関する研究
- ・肺がん、胃がん、大腸がんに関する研究
- ・加齢関係疾患と被曝等との関連に関する研究
- ・睡眠の量及び質と各種疾患についての横断並びに縦断調査
- ・被爆者の介護予防のための調査

(2) 文献の収集

原爆関係図書の収集と保存、並びにその活用を図った。

(3) 第58回原子爆弾後障害研究会の開催

第58回原子爆弾後障害研究会を平成29年6月4日(日)、広島国際会議場において開催した。研究会では、特別講演、シンポジウムのほか、一般演題32題が発表され、本会関係者は、一般演題2題を発表した。

◎ 一般演題

- | | |
|----------------------------------|----------|
| ・「高齢者検診の意義：生活習慣病を中心とした検討」 | 佐々木伸夫 ほか |
| ・「原爆被爆者の対策型胃がん検診－X線検査と内視鏡検査の比較－」 | 品川祐樹 ほか |

3 被爆者の援護福祉事業

(1) 被爆者相談

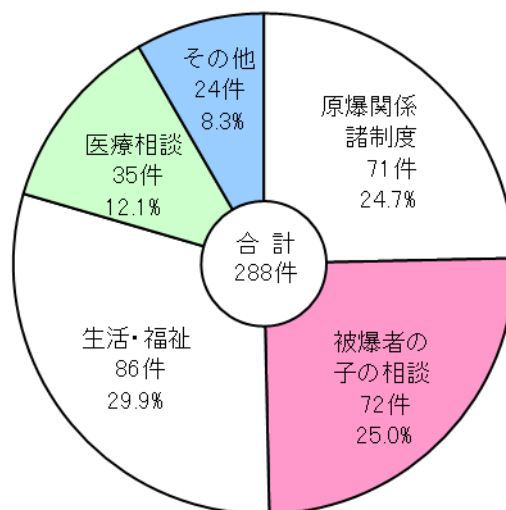
昭和 36 年、原爆被爆者福祉センター開設と同時に相談業務を開始したが、被爆者援護の積極的強化を図るため、昭和 42 年 7 月専任相談員を配置し、昭和 53 年 11 月には、来訪者の便宜を図って一階ロビーに相談コーナーを設置した。

開設以来の相談件数及び平成 29 年度の被爆者相談の状況は下表のとおりである。

開設以後の相談件数

年 度	件数 (件)	年 度	件数 (件)
昭和 36	51	平成元	4,530
37	29	2	4,074
38	19	3	4,183
39	30	4	3,525
40	46	5	3,451
41	68	6	3,482
42	240	7	3,512
43	334	8	3,576
44	465	9	3,393
45	626	10	3,758
46	910	11	2,911
47	626	12	3,414
48	507	13	2,817
49	568	14	2,572
50	871	15	2,522
51	1,241	16	2,455
52	1,746	17	2,084
53	2,566	18	576
54	3,174	19	625
55	2,319	20	566
56	3,676	21	601
57	3,057	22	503
58	2,852	23	414
59	2,660	24	394
60	3,283	25	371
61	3,086	26	323
62	3,454	27	337
63	5,333	28	301
		29	288

平成 29 年度の被爆者相談の状況



※平成 18 年度から集計方法を変更し、電話による問い合わせ等簡易な相談については、相談件数に計上しないこととした。

(2) 被爆者の援護措置

本会の原爆被爆者援護規程に基づき、被爆者の生活及び健康上の相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ、必要な指導及び援護の措置を講じている。

この財源は、全国から本会に寄せられる寄付金を基にして、次のとおり実施している。

- ア 被 爆 者 援 護 金：被爆者の生活の維持向上を図るため、生活困窮者に月額 10,000 円を支給する。
- イ 被 爆 身 障 者 等 見 舞 金：夏季と年末の年 2 回、被爆身体障害者福祉手当受給者、在宅高齢者福祉手当受給者、小頭症手当受給者、被爆者援護金受給者を対象に見舞金を贈って慰問する。
- ウ 福祉用具貸与・購入費補助：住民税非課税世帯の介護保険福祉用具利用者に補助金を支給する。
- エ そ の 他 の 補 助：以上のほか特に援護の必要を認められる者に、その都度経費の一部を補助する。

平成 29 年度の援護費支給状況は下表のとおりである。

平成 29 年度援護費の支給内容

種 別	人 員 (人)	支 給 額 (円)
被爆身体障害者等見舞金	16	140,000
福祉用具貸与・購入費補助	236	2,219,000
合 計	252	2,359,000

4 健康教育事業

健康に関する科学的知識の普及啓発を図るため、子供から高齢者までの各年齢層に応じた様々な健康問題について、最新で正確な情報を分かりやすく提供することにより、日常における健康管理について正しい知識の普及に努めた。

(1) 健康科学展示施設の運営

人間のからだの仕組み、病気と健康、歯の健康等について子供から大人まで興味を持って学習できる拡大模型・映像・グラフィックパネル等の展示を行った。

ア 年間利用者数 50,129 人

平成 29 年度健康科学館利用状況

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
観覧者数	観覧者数	2,930	2,887	4,063	5,609	9,956	4,440	4,135	3,626	2,778	2,784	3,151	3,770	50,129
	大人 (人)	1,523	1,545	2,308	2,772	4,025	2,036	2,155	1,767	1,502	1,506	1,744	1,880	24,763
	小人 (人)	410	397	381	1,018	2,908	1,092	771	787	223	314	311	532	9,144
	幼児 (人)	997	945	1,374	1,819	3,023	1,312	1,209	1,072	1,053	964	1,096	1,358	16,222
利用者数	トータルヘルシアター (人)	124	149	502	173	15	342	339	251	135	229	351	387	2,997
	上映回数 (回)	100	92	119	63	7	92	96	95	86	88	92	104	1,034
	研修会議室 (人)	380	495	1,115	2,671	7,612	1,348	747	916	716	342	681	467	17,490
	視察・見学 (回)	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	主催事業 (回)	9	8	9	15	27	9	8	16	11	6	8	5	131
	共催事業 (回)	2	1	4	3	1	1	1	2	1	0	1	1	18
	ビデオ上映 (回)	1	4	11	2	0	17	5	11	2	0	3	3	59
	健康ライブラリー (人)	130	115	156	205	331	155	156	163	101	125	152	263	2,052
	つどいの広場 (人)	1,618	1,486	1,979	2,061	2,165	1,826	1,827	1,523	1,392	1,468	1,443	1,778	20,566
	大人 (人)	817	771	1,022	1,009	1,034	927	915	770	730	742	739	882	10,358
	幼児 (人)	801	715	957	1,052	1,131	899	912	753	662	726	704	896	10,208

イ 企画展の開催 年 4 回

平成 29 年度企画展の観覧者数

名 称	期 間	日 数	観覧者数 (人)			
			大人	小人	幼児	合計
足で考える健康	平成29年3月18日～7月17日	89	3,311	1,401	1,041	5,753
それ行け！からだ探検隊	平成29年7月22日～11月12日	93	6,386	5,786	3,365	15,537
ふしぎな発酵食品の世界	平成29年11月18日～平成30年3月11日	87	3,206	1,347	1,330	5,883
かむかむ嚙ミング	平成30年3月17日～7月16日	12	623	386	185	1,194
合 計		281	13,526	8,920	5,921	28,367

※ 開催期間中の該当年度の観覧者数を集計したもの

ウ パネル展 年 12 回

(2) 健康ライブラリーの運営

健康に関する最新の健康情報を提供した。

(3) 健康に関する教育研修の実施

- ・主催による研修会・イベント 年 62 回 参加者 2,924 人
- ・他の関係機関との共催による研修会 年 18 回 参加者 714 人

(4) ボランティア（ヘルスサポーター）の育成・活動事業

- ・ボランティアの養成講座（7 課程） 年 1 回
- ・ボランティアの育成講座 年 6 回
- ・ボランティアの活動事業 年 460 回

(5) 広報活動（ＴＶ・ラジオ取材等） 開催数 91 回

(6) 展示物・資料等貸出 12 回

5 検査診療及び人間ドック健診等の収益事業

- (1) 被爆者や市民の健康診断の結果、悪性疾患等が疑われた場合には、確定診断や病期判定のために詳細な検査（ＣＴ・ＭＲＩ・内視鏡・超音波検査等）を行い、治療が必要な場合には、外部医療機関等との連携により最善の方策を進めた。

また、広島市医師会からの依頼による生体検査（ＣＴ・ＭＲＩ・内視鏡検査・Ｘ線撮影等）を行い、積極的に外部医療機関との協力を推進した。

- (2) 事業所・個人からの依頼による人間ドック健診、生活習慣病予防健診、事業所健診等の健診を実施した。健診結果に基づいて生活習慣の見直し等を指導し、病気の発症を未然に防ぐとともに、疾病を早期に発見し、早期治療ができるように健診活動を行った。

＜実施件数＞	人間ドック健診	1,950 件
	生活習慣病予防健診（協会けんぽ）	3,176 件
	事業所健診	3,361 件
	ストレスチェック	741 件

管理栄養士・健康運動指導士が受診者一人ひとりに適した運動・栄養について指導・助言を行い、市民の健康の維持・増進を図った。

＜実施件数＞	栄養サポート・運動サポート	292 件
	健康サポート	114 件

6 その他目的達成に必要な事業

(1) 子育て支援事業

ア ファミリー・サポート・センターの運営

保護者の急な用事や残業の際の預かり、子育ての悩みなどに対応するため、ファミリー・サポート・センター（地域において子育ての援助活動を行う者と援助を受けたい者からなる会員組織）を設置し、会員同士の子育てに関する支援機能の充実を図った。

(7) 会員の募集・登録など会員組織の管理運営

会員数 3,823 人（提供会員：547 人 依頼会員：3,194 人 両方会員：82 人）

【平成 30 年 3 月 31 日現在】

(4) 援助活動の調整

マッチング件数 1,311 件

(ウ) 提供会員登録講習会（援助活動に必要な知識の普及）（年 1 回 7 月）

(イ) 会員同士の交流会 3 回

(オ) 会員講習会 10 回

(カ) 機関誌の発行 1 回

イ つどいの広場の運営

子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図った。

(7) 常設のつどいの場の提供

(4) 子育てに関する相談援助

(ウ) 子育て関連情報の提供

(イ) 子育て等に関する講習会の開催 年 18 回

(オ) 利用者数 20,566 人（大人 10,358 人 幼児 10,208 人）

ウ パパとママの育児教室の運営

夫婦が協力して子育てを行うために、育児における夫婦の役割や育児全般について講義・実習を行い、家庭における育児能力の向上を図った。

ブレパパママ育児スクール 年 34 回、参加者 2,206 人

(2) 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

ア 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

被爆地広島における放射線被曝者医療の経験とその蓄積を広く世界各地の放射線被曝者治療に役立てようと平成 3 年 4 月に発足した「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、医師等の受入（平成 29 年度は、7 回にわたり 34 名の医師等の医療研修）を積極的行った。

イ 来日原爆被爆者の健康診断、医療相談等の実施

国外に居住する被爆者が来日の際、健康診断および医療相談等を実施するとともに、健康管理手当申請等の相談にも応じるなど、在外被爆者への援助を引き続き行った。

7 平成 29 年研究業績

(1) 学会発表

日本総合健診医学会第 45 回大会（1 月 27～28 日、浦安市）

- ・前田亮、石田啓、門前裕子、加藤博也、内藤久美子、川西昌弘、佐々木伸夫、吉良さくらこ、藤原佐枝子：マンモグラフィ（MMG）単独乳癌検診に関するシミュレーション

第 29 回日本消化器画像情報研究会（2 月 11～12 日、福岡市）

- ・品川祐樹、松島文昭、山田圭紀、大畑秀太、高綱初、川西昌弘：大腸 CT の苦痛度合いアンケート調査

第 6 回臨床高血圧フォーラム（5 月 13～14 日、岡山市）

- ・佐々木伸夫、小園亮次、山下英尚、藤原佐枝子、木原康樹：睡眠習慣と腎機能および蛋白尿の関連性について

第 58 回原子爆弾後障害研究会（6 月 4 日、広島市）

- ・佐々木伸夫、内藤久美子、加藤博也、石田啓、前田亮、藤原佐枝子：高齢者検診の意義：生活習慣病を中心とした検討
- ・品川祐樹、川西昌弘、前田亮、藤原佐枝子：原爆被爆者の対策型胃がん検診—X 線検査と内視鏡検査の比較—

第 42 回日本睡眠学会（6 月 29 ～ 30 日、横浜市）

- ・佐々木伸夫、小園亮次、寺面和史、山下英尚、藤原佐枝子、木原康樹：睡眠習慣と心血管疾患：虚血性心疾患と脳卒中の異同についての検討

European Society of Cardiology Congress 2017（8 月 26 ～30 日、バルセロナ）

- ・Nobuo Sasaki, Ryoji Ozono, Kazushi Teramen, Hidehisa Yamashita, Saeko Fujiwara, Yasuki Kihara. Poor sleep and cardiovascular disease: different pattern of sleep disturbance in ischemic heart disease and stroke.

第 33 回日本診療放射線技師学術大会（9 月 22～24 日、函館市）

- ・品川祐樹、松島文昭、釜須礼子、大畑秀太、高綱初、横竹文香、川西昌弘：大腸 CT における右下側臥位の追加撮影と苦痛の違いについて

第 40 回日本高血圧学会総会（10 月 20～22 日、愛媛）

- ・佐々木伸夫、藤原佐枝子、小園亮次、木原康樹：睡眠習慣と肥満の関係：高血圧と骨粗鬆症：高齢者の検診データを基にした解析

第 48 回日本消化器がん検診学会 中国四国地方会（12 月 10～11 日、高松市）

- ・品川祐樹、松島文昭、大畑秀太、高綱初：透視観察が有用であった早期胃がんの 2 例

(2) 講演会等

山口県診療放射線技師会第 3・4 回胃がん検診 X 線撮影従事者講習会（1 月 22 日、山口市）

- ・品川祐樹：検査台をあまり下げずに前壁撮影を行うコツ

第 3 回中四国スクリーニング CTC 研究会 COLOSSEO（2 月 26 日、広島市）

- ・品川祐樹：大腸 CT の症例検討

第 41 回広島県西部地区胃研究会（3 月 24 日、広島市）

- ・品川祐樹：これからの胃がん検診について

第 10 回岡山 CT コロノグラフィー研究会（4 月 1 日、岡山市）

- ・品川祐樹：ダイナミックスタディの大腸 CT

第 42 広島県西部地区胃研究会（5 月 26 日、広島市）

- ・品川祐樹：新、胃 X 線撮影法のコツ 前編 撮影開始から下部撮影まで

健康科学館での講座の実施（8月8日、広島市）

- ・芳上将：自分のからだのメンテナンス ピラティスをはじめよう

第53回CTテクノロジー勉強会（8月25日、広島市）

- ・品川祐樹：大腸CT検査のポイント

第1回広島大腸CT研究会（CATCH）（9月1日、広島市）

- ・品川祐樹：大腸CTの腸管拡張と撮影

第11回消化管先進画像診断研究会（9月3日、広島市）

- ・品川祐樹、内藤久美子、大畑秀太、高綱初、川西昌弘：大腸CT検査における大腸がんの深達度診断

健康科学館での講座の実施（9月21日、広島市）

- ・芳上将：気軽に始める体幹トレーニング

第43回広島県西部地区胃研究会（9月29日、広島市）

- ・品川祐樹：新・胃X線撮影法のコツ 後編 前壁撮影から上部撮影まで

健康科学館での講座の実施（11月11日、広島市）

- ・芳上将：パパとふれあい体操

健康科学館での講座の実施（11月21日、広島市）

- ・芳上将：日常に運動を取り入れよう

(3) 論文

- ・Nobuo Sasaki, Saeko Fujiwara, Ryoji Ozono, Hidehisa Yamashita, Yasuki Kihara. Lower blood pressure and smaller pulse pressure in sleeping pill users: A large-scale cross-sectional analysis. *Medicine (Baltimore)*. 2017;96:e8272

Ⅶ 資 料

1 年度別被爆者数（広島市及び広島県）

広島市「原爆被爆者対策事業概要」より

（各年度末、単位：人）

年 度	広 島 市	広 島 県	合 計
昭和 32	74,610	32,342	106,952
33	79,400	36,531	115,931
34	82,476	38,611	121,087
35	82,831	43,713	126,544
36	87,752	48,716	136,468
37	92,796	51,153	143,949
38	93,608	51,014	144,622
39	93,393	53,113	146,506
40	92,911	57,204	150,115
41	95,627	64,768	160,395
42	94,975	71,574	166,549
43	92,921	75,987	168,908
44	91,389	77,442	168,831
45	90,336	81,233	171,569
46	92,090	80,881	172,971
47	108,764	66,812	175,576
48	108,690	66,624	175,314
49	114,411	62,874	177,285
50	114,542	65,219	179,761
51	113,384	66,253	179,637
52	112,738	66,699	179,437
53	111,811	67,228	179,039
54	110,717	67,799	178,516
55	109,612	68,356	177,968
56	108,870	68,211	177,081
57	108,208	68,208	176,416
58	107,093	67,550	174,643
59	113,885	59,322	173,207
60	112,871	58,856	171,727
61	111,433	58,121	169,554
62	110,392	57,580	167,972
63	109,118	57,046	166,164
平成元	107,459	56,250	163,709
2	105,599	55,579	161,178
3	103,818	54,889	158,707
4	101,939	53,958	155,897
5	100,188	52,851	153,039
6	98,473	51,844	150,317
7	96,929	50,766	147,695
8	95,260	49,630	144,890
9	93,637	48,577	142,214
10	91,940	47,173	139,113
11	90,184	45,451	135,635
12	88,592	44,367	132,959
13	86,779	43,246	130,025
14	85,065	41,995	127,060
15	83,732	40,739	124,471
16	81,649	39,427	121,076
17	80,509	37,381	117,890
18	78,111	35,987	114,098
19	75,642	34,561	110,203
20	73,388	33,027	106,415
21	71,194	31,619	102,813
22	68,886	30,498	99,384
23	66,660	28,926	95,586
24	64,302	27,388	91,690
25	61,666	25,954	87,620
26	58,933	24,434	83,367
27	56,174	22,818	78,992
28	53,340	21,286	74,626
29	50,384	19,836	70,220

2 年賀寄附金配分金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	配分金額
昭和 34 35	原爆被爆者福祉センター本館建設	55,844,000	52,300,000
38	健診車、原爆被爆者福祉センター暖房設備設置	27,379,000	16,850,000
41	原爆被爆者福祉センター増築	92,100,000	41,000,000
43	テレビレントゲン装置、オートアナライザー設置	30,490,000	20,000,000
45	原爆被爆者福祉センター増改築	56,548,000	25,000,000
47	ハイゼルマーク X、コールターカウンター設置	59,000,000	29,000,000
49	コールターカウンター搭載健診車(1号車)購入 パンスパイロコンピュータ設置	39,828,000	24,000,000
51	胃検診用 X 線テレビジョン装置 コールターカウンター設置	43,900,000	23,000,000
53	X 線テレビジョン装置 胸部一般撮影用装置設備	37,600,000	23,000,000
55	自動血球分類装置(diff-3)	50,000,000	28,000,000
57	コールターカウンター搭載健診車(2号車)購入	42,800,000	28,000,000
59	コールターカウンター搭載健診車(1号車更新)購入	42,920,000	30,000,000
61	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-501) 胃透視用 X 線テレビ装置設備	76,000,000	40,000,000
63	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-201) CR 専用 X 線透視撮影台設備 CR 用光ディスク画像ファイル装置設備	156,000,000	70,000,000
平成 2	超電導 MRI 装置設置	83,430,000	50,000,000
4	コールターカウンター搭載健診車(2号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR7501(CR-501 更新)	78,000,000	46,000,000
6	コールターカウンター搭載健診車(1号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-201 更新) 光ディスク画像ファイル装置 集合型光ディスク画像ファイル装置	134,000,000	67,000,000
8	CR 用 X 線透視撮影装置 MRI 装置のバージョンアップ	92,000,000	36,000,000
10	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-7000 更新) 心電図データマネジメントシステム	73,500,000	25,725,000
12	MRI 装置(更新)	144,375,000	10,000,000
14	自動血球計算装置(更新)	21,315,000	7,460,000
16	全自動血球計算装置搭載健診車(2号車更新)	33,180,000	10,000,000
18	全自動血球計算装置搭載健診車(1号車更新)	27,615,000	2,060,000
20	超音波診断装置(更新)	12,915,000	4,916,000
22	全自動電気泳動装置(更新)	10,263,235	4,028,235
合 計		1,521,002,235	713,339,235

3 日本自転車振興会補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事・用地買収整備	46,885,000	29,150,000
42	原爆被爆者健康管理設備等の整備 健康診断用自動車整備・X線装置整備	5,565,000	2,550,000
43	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房設備工事・倉庫建設工事	15,401,000	5,430,000
平成元	原爆被爆者の診療機器の整備 CR専用X線透視撮影台 心電図自動解析ファイリング装置	74,469,000	37,234,500
3	原爆症診療機器の整備 X線骨密度測定装置・超音波診断装置	29,272,000	14,636,000
5	原爆症診療機器の整備 胃集検用X線デジタルラジオグラフィ装置	65,000,000	32,500,000
7	原爆症診療機器の整備 CR用X線透視撮影装置	36,000,000	14,420,000
9	原爆症診療機器の整備 X線骨密度測定装置	24,675,000	6,825,000
11	原爆症診療機器の整備 X線テレビ装置(DRシステム)	32,025,000	14,700,000
13	原爆症診療機器の整備 超音波診断装置配慮	16,695,000	8,242,000
合 計		345,987,000	165,687,500

4 車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 53	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室の増改築、消防設備・機械室の整備 厨房・静養室・外壁の補修工事	22,550,000	7,560,000
62	原爆被爆者有福温泉療養研究所 ロビー事務室改修工事、食堂拡張及び内装工事 アルミサッシ取替及び木製建具工事等	21,390,000	14,260,000
平成 4	原爆被爆者有福温泉療養研究所 客室内装工事、アルミサッシ取替工事 外壁塗装及びボイラー・貯水槽更新等	45,629,000	29,520,000
9	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事、リネン室防水工事	36,236,500	15,300,000
10	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事	20,454,000	10,220,000
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	7,920,000
合 計		162,114,500	84,780,000

5 広島県補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,906,964	800,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	800,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	800,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	800,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	800,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	800,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	800,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,300,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,500,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,500,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,500,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,500,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,500,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,500,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,500,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,500,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,500,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,500,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,500,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,500,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,500,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,500,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,500,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,500,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,500,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,366,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,146,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,123,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	694,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	951,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,148,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	1,033,000
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	2,156,000
	合 計	411,917,521	101,303,000

6 広島市補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,903,964	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事	46,885,000	9,727,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	1,000,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	1,000,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	1,000,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	1,000,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	1,000,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	1,000,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,500,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,700,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,700,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,700,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,700,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,700,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,700,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,700,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,700,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,700,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,700,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,700,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,700,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,700,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,700,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,700,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,700,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,700,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,530,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,530,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	1,329,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	1,300,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,300,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	715,520
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	2,156,000
合 計		458,799,521	119,673,520

7 日本高等学校教職員組合等からの寄付金

(単位：円)

年 度	日本高等学校教職員組合	個人・その他の団体	合 計
昭和 38	30,000	180,638	210,638
39	37,298	158,881	196,179
40	－	485,027	485,027
41	30,000	385,603	415,603
42	－	503,278	503,278
43	97,075	354,883	451,958
44	72,916	556,012	628,928
45	276,389	220,175	496,564
46	176,664	435,108	611,772
47	475,358	533,674	1,009,032
48	630,433	358,972	989,405
49	876,166	432,000	1,308,166
50	1,008,761	450,982	1,459,743
51	1,091,674	290,000	1,381,674
52	1,212,000	235,500	1,447,500
53	1,224,093	943,000	2,167,093
54	1,464,294	150,000	1,614,294
55	1,444,053	380,000	1,824,053
56	1,316,185	85,000	1,401,185
57	1,514,511	580,070	2,094,581
58	1,583,894	308,000	1,891,894
59	1,532,635	342,000	1,874,635
60	1,505,193	103,000	1,608,193
61	1,468,864	1,710,500	3,179,364
62	1,496,799	88,400	1,585,199
63	1,514,795	63,755	1,578,550
平成元	1,574,770	305,000	1,879,770
2	1,501,600	415,000	1,916,600
3	1,586,500	5,000	1,591,500
4	1,617,000	0	1,617,000
5	1,487,000	0	1,487,000
6	1,425,000	510,000	1,935,000
7	1,480,000	0	1,480,000
8	1,525,000	470,000	1,995,000
9	1,400,000	1,800,000	3,200,000
10	1,435,000	0	1,435,000
11	1,345,000	250,000	1,595,000
12	1,300,000	0	1,300,000
13	1,270,000	0	1,270,000
14	1,160,000	50,000	1,210,000
15	1,110,000	5,025,000	6,135,000
16	970,000	0	970,000
17	980,000	301,033	1,281,033
18	930,000	0	930,000
19	870,000	0	870,000
20	850,000	0	850,000
21	830,000	0	830,000
22	813,080	0	813,080
23	765,000	0	765,000
24	785,000	0	785,000
25	810,000	0	810,000
26	835,000	0	835,000
27	850,000	0	850,000
28	800,000	0	800,000
29	752,200	50,000	802,200
合計	55,137,200	19,515,491	74,652,691

8 全国から寄せられた寄付金

(資料7再掲、敬称略)

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
昭和 29	239,486 円	39 件	埼玉県比企郡自然科学研究所, 中和孝三, 若月一夫, 広島ロータリークラブ, 無名子, 斉藤金三, 東京都渋谷区議員団, サンエッチ外, 中井一夫, 中島茂, 無名子, NHK 一般募金, 大阪市立松宮小学校同窓会, 清水達造, 伊勢谷洋一, 増川義信, 広島美術人展, 岸英一, 毛利典攬, 米子市口陰田婦人会並青年団, 豊田郡大草村青年団○支部代表者吉田宣徳, 日本国民健康会長和気清喬, 吉本美枝子, 中野正義, 匿名, 中国電波管理局組合支部長, 石田ハル, 一凡人, 沢千代子, 田川一男・順二, 傷痍軍人会・長門労働組合連合会・長門連合青年会, 原爆障害者救援会会員一同, 一海上自衛隊員, 匿名人, 池田稔, 宮原高等学校弁論部, セタヤ・ピカッシュ・バーナジエ, 広島県博愛協議会中島茂, 池田稔
30	419,804 円	38 件	池田稔, 広島ライオンズクラブ会長寺田豊, 湯浅傳, 池田稔, 蓑○豊子外 24 名, 青山晴男, 佐々木一, 岩手小学校五年一組 34 名一同, アイラ・レ・モーリス, 広島県博愛協議会中島茂, 土岡博一, 能代市職域文化団体連絡協議会笹村堅一郎, 匿名, 奥田洋子, 法政大学県人会, 京都子供カリタス会, 一高校生, 朝枝章, 広島平和美術展事務局, 大阪T生, 匿名, 銀座東宝社長, 呉市宮原高校卒業生プラタナス会代表竹中三郎, 原水爆禁止小金井準備会長鈴木誠一, 海老名町青年団, 斉藤嘉輔・明子, 小倉市I子, 藤岡女子高等学校生徒会, ブラジル・マルネイラセーマ町より, 原田久, 高知県安藝郡教員組合, 原田東岷, ポートドーバーライオンズ倶楽部, セントピーターライオンズ倶楽部, 原爆惨禍相起協議会長遠藤南史, 美○ミシン工業株式会社, 近藤ミシン株式会社, 明治大学広島県人会
31	3,230,819 円	98 件	原爆惨禍想起協議会長遠藤南史, 島田平和の集い準備会島田市市長, 北海道農民同盟青年部, 富山市奥田枝下婦人会, 島田市クリスタルクラブ, 森廉, 下呂平和を護る会準備会, 柳川小学校六年一組一同, 無名, 浜崎谷松, 落合一男, 藤村進, マレー ヤング, 古谷良念, 無名子, 海上自衛隊○○隊十五分隊, 安芸教区仏青連協議会長○重一教, 渡辺弘子, 大阪住友金属工業会社外十二社, 東海田町青年団寺迫支部代表田原○男, 医師会卒業者無名氏, 横浜市新生活運動婦人○○会一同, 福家俊明, 野溝○人, ある少女, 森数美, 一女生, 大阪東区一高校女学生, 高橋信雄, 徳原芳子, 遠藤南史, 小林蘊徹, 梅林とし子, 榎原彰夫, 無名氏, 八・一五終戦記念平和の夕世話人会代表堀口恒次, 無名氏, ○○○○○○○○○, 山口県豊田町殿居地区婦人会長岡崎あつ子, 服部保外十四名, 全国連合竹和会, 賀茂郡造賀村婦人会代表辻川静枝, 中山教進・○○○・国定典明, 神阪○子, 国鉄幡生工場原爆罹災者救援会小西旭, 山崎常雄外九名, 中学一少女, 東淀川平和の夕実行委員会, 古谷良念, 尾久母の会南支部・仲支部・東支部一同, 兄妹三人無名子, 茶谷京子, 田中卓爾, 広本露子, 大谷高校二年生, 高橋又一, 鉄砲町一吉方一, 元宇品小学校五年生一同, 大阪市内某氏, 菊池京子, 一中学校学級一同, 大原乙彦, 広島市原子力平和利用博覧会長渡辺忠雄, 井口愛之助, 大森植松, 柳田孝, 東京都共同募金会長藤山愛一郎, 兵庫県共同募金会長岡崎忠, 無名士盲人, 茨城県取手第○○学校生徒会長長大久保証夫, 北米加州パークレー広島県人会長大館誓一, 大阪某氏, 無名氏, ○○孟範, 遠藤南史, 身体障害者厚明会長, 中国訪日京劇団代表・朝日新聞社, 井上敏子, 秋本庸夫, 山田千恵子, 大歳盛明, 太陽海運株式会社, 長井あきよ, 山田千恵子, 三人の友達, 成名小学校・鴨川中学校, 維信高等学校二年D組ひいらぎグループ, 広島県司法書士会員総会出席者有志, 全国司法職員労働組合広島支部, 宮崎迫彦, 安永隆夫, 金沢薫台高等学校二年修学旅行団, 羽咋高等学校生徒会, アーヴィンクンツ夫妻, 高木俊子, 羽田○良正, 益村弥太郎, クロンドチーク
32	149,684 円	21 件	大森シゲ, 山田○○○○, 井木康秀, 赤川正章, 匿名氏, 山田千恵子, 斉藤明子, 読売新聞社新聞○○委員会, 取石小学校児童会, 金清公夫, 一青年, 宮原太郎, 下広井原青年団小川博○外十三名, 匿名, 栗栖勝, 久留米市匿名, 法政大学建築科一同, 城東中学校生徒会, 上田柳吉, 吉坂中学校原田耕滋外十四名, フレデークイン
33	293,316 円	50 件	日本原水爆被災者救援会代表篠原つる子, 増田呉省, Medizinische Klinik, 朝山カツノ, 江田島自衛隊○○学校生徒, ○○高校三年図書部・○○君子, 匿名, ドイツ医学週間法出版社, 東京田無町婦人連絡協議会, シチズン時計工場内文化部映画班, 田口正治, 大竹市小方中学生徒会, 一無名士, 清香仏教青年会, 名田典子, 岩国市立東小学校五年二組一同, 橋詰博, 三立製菓株式会社・鈴木自動車工業会・○○トマト会外三社, 吉原信之, 斉藤明子, 漫画協団代表筑摩鉄平, 中豊純子・實二, 秋田県沖田○小学校五年生一同, 京都市一中学生, 第一製菓・三共○○・オリンパス光学・カミシマ製作社・小野田セメント・沖電気工業会社・三菱電気・東芝商事, 高校生二名, 梅津町青年団西江支部, 横山妙, 田口正治, ○○無名氏, 大洲病院一同, 築地子供会,

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
34	575,892 円	32 件	東町連合子供クラブ一同、川崎市東芝○附工、段原女子女学園中学一年六組一同外匿名三、野口あき、東京電気大学○○学校・浜田加代子・土肥邦雄・三村豊・タクシー運転手・松下和義・山田洋士・東京忍岡高校生・○川○○、屋代小・中学校・戸倉中学校、匿名、広島県○○○・吉本勝・浜田カヨ子、山田千恵子、高橋昭博、杉淵徳治、山田千恵子、河野次郎・県教職組合・乃美小学校 6 年○組、○尾富美子、浜田加代子、土肥邦雄、三村典子、松下和義
35	78,957 円	17 件	丸本杏男、山田千恵子、日本むつみ会、山田千恵子、奈良県一○人、山田千恵子、吉岡隆夫、神戸市親和高校グループ、日本むつみ会老生、山田千恵子、金沢兼之助、東京福祉協会理事小祝昌弘、四人の女月光仮面、一読者、愛知トマト KK 他 7 社、日本むつみ会老生、(匿名)、大阪一女性、匿名者、田口正治、グレチエン・タットヒル、古賀和紀、グレチエン・タットヒル、金光教群馬県西部連合会、藤村弘、全日労組合広島地方会議組合員、篠村つる子、香川県千羽鶴運動実行委員会、イタリア生、(匿名)、浦辺和美外三名、徳竹道生外一名
36	1,935,402 円	30 件	広島予研支所匿名、広島予研支所匿名、アーサー・マリー・アイビンダー、赤松鉄也、赤松鉄也、匿名、篠村つる子、金子健次郎、大阪 K.E.氏、匿名、匿名、山田千恵子、山田千恵子、森新一、山田千恵子、原水爆禁止大川市協議会長古賀清治、広島県競輪選手会
37	140,129 円	19 件	紺野光吉、紺野光吉、日本原水爆被災者救援協会代表富井令子、石田久子、山田キク、関つる、山蔭貫之、関つる、紺野光吉、日本電装労働組合、ルイス・カヴレル、匿名、匿名 2 名、全大丸労働組合神戸支部、全国財務労働組合、紺野光吉、原田東岷、安佐郡長東地区婦人会長原田静枝、寺本典夫、佐藤富子、土井憲策、山崎君子、愛知県立明和高等学校定時制夜間課程職員生徒一同、石川県立工業高等学校デザイン科有志、紺野光吉、原爆傷害調査委員会代表ジョージ・B・ダーリング、紺野光吉、柿原幸二、小崎芳子、紺野光吉
38	210,638 円	23 件	紺野光吉・無名氏、三次中学校、三次町本通一子供会、紺野光吉・匿名、山田千恵子、小川亀三、日○一社員外三氏匿名、紺野光吉・m.y., 清水芳郎、駒込学園一同、呉造船労組宮原地区家族会、日本司法書士会連合会総会出席者、東大教育学部高校一年 A 組、板木節夫、藤田正行、河原卓一、安永茂雄、日下部春一、岩滝宗雄
39	196,179 円	18 件	神戸市育英高等学校一年十組、中村勝弥、奥田光太郎、空調タイムス社代表取締役杉本英太郎、大歳盛明、志村寛一、ノートルダム清心高等学校三年生一同、山田千恵子、山田千恵子、徳島県民主社会主義青年連合組織部長岡内淑夫、般若太郎外七口、岡本稔雄・吉田町役場職員組合、村上春雄、ロスアンゼルス・シカゴミヤコ観光団、日本高等学校教職員組合、中川シゲノ、山口親愛教会 S 氏、(匿名)、本間妙海、匿名、村上和輝、日赤東京都支部寄託、読売新聞社寄託
40	485,027 円	23 件	読売新聞社寄託 2 名、日赤東京都支部寄託、匿名、山田千恵子、中国新聞社会事業団寄託、政治経済研究会代表番匠朝昭、日本高等学校教職員組合代表磯本達則、中国新聞社会事業団寄託、土手と海外二名、原水爆禁止門○市協議会会長東重太郎、金沢なでしこ会三人、金光教広島県連合会外二件、岐阜県立中津高等学校職員二学年一同、黒瀬町上黒瀬小学校五年生一同、福島県石川実務学園長外三ヶ所、朝日新聞山口支局寄託、石川県立金沢高等学校二四ホーム一同、大○七
41	415,603 円	18 件	神戸新聞厚生事業団寄託、石川県金沢高等学校修学旅行団、パリ大学医学部ウェーグマン教授夫妻、中川製袋化工 KK35 周年記念会招待者一同、○生製作所労組、渋谷区代々木善明会教団、全国自動車産業労働組合連合会東海支部、山形県 16 歳学生、中島マチ、豊島区 S.K、こばやし、塚本利光、大豊○樹、尾川昭外七ヶ所、比和中学校福田部落会生徒、キリンビール労働組合広島工場支部長○○永○○、松岡洋子・岡本・玉置せき、東京電気大学高校普通科二年生一同、日本大学豊山学園友輪会、豊橋市時○○高校二年一組一同、豊川地方労働組合、○田照夫、石本タケノ
42	503,278 円	21 件	喫茶ガーネット、小池静子外二名、県内に住む一女性、三宅千代子、日本高等学校教職員組合中央執行委員長磯本達則、善明会教団東京支部、セント・ジェルジ博士、右田辰雄・原水爆禁止議員連盟外二名、東京電機工業高等学校定時制及全日制生徒○○○キリスト○○、大阪市旅行クラブ「浪花会」、国際協力及軍備に関するオーストラリヤニュージールランド委員会、吉田達雄、安田火災労働組合東京分会青年婦人部一同、土井憲作、南千田ヘルスセンター、山本雅子、矢沢一民、旧普通科神○高等学校一年三組
			川上ナルエ、堤健一郎、徳原スミ子、飯田商店外二者、杉山博康、小松修、神戸外大二部原水禁実行委員会一同、片山茂樹、法眼○外五件、三次市栗原町婦人会外二件、新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶円、読売新聞社寄託、金洞海、山形 KO 東京電機大学高校工業科二学年一同・定時制四年 C 組一同、奈良県青龍寺小西妙淳、全日本印刷工業組合連合会中国地区印刷工業組合協議会広島県印刷工業組合、フランス人シャンボイゼ、新田修三、関川守彦、下松市私立慈光園長・匿名梓蔭高校

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
43	451,958 円	20 件	日本高等学校教職員組合、長崎原子爆弾被爆者対策協議会長諸谷義武、日本火薬福山工場ダンス同好会一同、本田英郎、日本高等学校教職員組合、大口あさを、金井政吉、姫路市匿名、舟入本町商店街、広島市の者、藤井音次郎、新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶圓、沖一成、藤井音次郎、日本高等学校教職員組合、東海大学原子力教室、ビクターオート(株)広島営業所、酒井幸四郎、藤井音次郎、藤井音次郎
44	628,928 円	23 件	香川県高等学校教職員組合執行委員長古川静夫、藤井音次郎、水木ナツ、藤井音次郎、小畠静江、金井政吉、入田律子、舟入本通会、一老人、田中茂、新潟県十日町市原水爆禁止協議会、藤井音次郎、日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一、日本高等学校教職員組合執行委員長古川静夫、桂雄一、徳山市蟻の会代表水木敏郎、鈴川寅二、ヒロスイ株式会社社員加賀愛万・下岡好一・西村浩、鯉城クラブ、藤井音次郎、大園英彦、藤井音次郎、小野広秋
45	496,564 円	27 件	藤井音次郎、友広和夫、一匿名者、一匿名者、金井政吉、匿名の一少女、日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一、藤井音次郎、神戸市職青年部神戸市葦合区役所・神戸市生田区役所有志、堀内登久子、新潟県十日町市原水爆禁止協議会、匿名者、湧井雅晴、小西清、高田和典、法政大学女子高校1年F組、岩室久一、横光利之、苫小牧西高等学校新聞局、明大附属中野中学校2年生、藤井音次郎、一市民、狩野重治、藤井音次郎、岡野チヨノ、八木千代、日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一
46	611,772 円	19 件	藤井音次郎、藤井音次郎、金井政吉、広島市無名氏、藤井音次郎、日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之、柴崎英治、原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美、三重県立紀南高等学校修学旅行団一同、藤井音次郎、今田稔徳、広島木工製材機械協会、森崎律子、藤井音次郎、広島市匿名氏、安佐ボール社長武智義則、広島市無名氏、藤井音次郎、藤井音次郎
47	1,009,032 円	20 件	山口大学 YMCA 代表者山崎まり子、藤井音次郎、松川宣正、松川宣正、広島市 Y 子、日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之、下田工業株式会社広島支店長小野敏次、広島市無名氏、原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美、新谷五郎、松坂次男、藤井音次郎、原田東岷、飯田昭二、藤井音次郎、エア・ポートレーン支配人登勝志、広島市民無名氏、福岡県立浮羽高等学校二年五組グループ代表野上美由貴、岩手県釜石南高等学校社会研究部長佐藤三良、藤井音次郎
48	989,405 円	13 件	広島木工製材機械協会会長金子堅一、藤井音次郎、大高美代、岡儀造、日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之、下田工業株式会社広島支店従業員代表支店長小野敏次、原水爆禁止十日町市協議会書記長南雲藤平、藤井音次郎他、藤井音次郎、岡正造、藤井音次郎、甚兵衛ボールガータスクラブ代表進藤芳樹、藤井音次郎
49	1,308,166 円	11 件	渡辺ツルコ、足門ミドリ、日本高等学校教職員組合、広島市内原爆被爆者、原水爆禁止十日町市協議会、藤井音次郎、日本高等学校教職員組合中央執行委員長長木山八郎、奥野ワカヨ、広島市原爆被爆者、市山律子、上山しのぶ
50	1,459,743 円	11 件	坂本悦治、乙井ミツエ、愛媛県立南宇和高校生徒会顧問武田裕典、広島市民被爆無名者、広島第一劇場代表取締役吉田尚行、広島木工製材機械協会会長金子堅一、西部浩子、日本高等学校教職員組合、関が原石材労働組合中央執行委員長村瀬秀夫、初倉利明、西部浩子
51	1,381,674 円	4 件	広島鉄道管理局広島工場桂哲雄、河野和夫、日本高等学校教職員組合、長崎正明
52	1,447,500 円	7 件	大山ミチ子、松上年雄、広島木工製材機械協会、東京の一学生、日本高等学校教職員組合中央執行委員長斉藤啓夫、清水由紀子、高橋彰温
53	2,167,093 円	9 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長中川金作、浜井澄人、山口能弘、荒木邦男、山田春三、府中農協病院植田繁男、川村法人
54	1,614,294 円	2 件	日本高等学校教職員組合、東洋工業 K.K. 監査部主管初倉誠
55	1,824,053 円	4 件	寺岡聖、日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄、森崎利樹、藤井幸子
56	1,401,185 円	4 件	高野慶子、山口大学平和キャラバン隊、日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄、巖利文
57	2,094,581 円	5 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長服部寛信、山口大学ユネスコクラブ第12回平和キャラバン隊、花田実男、栃木県烏山女子高等学校三年一組一同、大阪産業大学教職員有志によるチャリティーバザー実行委員会
58	1,891,894 円	6 件	大高美代、京極春子、山口大学ユネスコクラブ平和キャラバン隊、原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美、ゼンセン同盟十日町職労佐藤敬、日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫
59	1,874,635 円	9 件	全日本宗教用具組合連合会、大高美代、大熊開市、日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫、中野ツルエ、大熊開市、大熊開市、大熊開市、大熊開市
60	1,608,193 円	12 件	大熊開市、大熊開市、大熊開市、大熊開市、大高美代、日本高等学校教職員組合、大熊開市、大熊開市、大熊開市、大熊開市、大熊開市、大熊開市

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
61	3,179,364 円	11 件	大熊開市, 大熊開市, 松坂次男, 大熊開市, 大高美代, 日本生命中央営業部藤本勇他職員, 一匿名者, 日本高等学校教職員組合, 酒井真司, 山村智寿子, 新中央工業株式会社代表取締役本部長中西忠彦
62	1,585,199 円	5 件	財団法人多山報恩会, 大高美代, さくらタクシー社長藤谷源市, 日本高等学校教職員組合, 匿名者
63	1,578,550 円	6 件	森田長昭, 匿名者, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 紀州アート株式会社, 匿名者
平成元	1,879,770 円	5 件	藤原雄, 広島木工製材機械協会会長前田静正, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 柘植正
2	1,916,600 円	5 件	柘植好江, 石田ヒサ子, 藏本淳, 大高美代, 日本高等学校教職員組合
3	1,591,500 円	2 件	大高美代, 日本高等学校教職員組合
4	1,617,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
5	1,487,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
6	1,935,000 円	4 件	日本高等学校教職員組合, 縁生の友の会, 中尾隆, 向井幸枝
7	1,480,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
8	1,995,000 円	6 件	日本高等学校教職員組合, 津川弘道, 田中文枝, 松坂紘一郎, 茅原春夫, 前田千代子
9	3,200,000 円	5 件	日本高等学校教職員組合, 高原義明, 杉本純雄, 伊藤文明, 伊藤千賀子
10	1,435,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
11	1,595,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 原田義弘, 毛利佳代子
12	1,300,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
13	1,270,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
14	1,210,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 藤岡マツエ, 山田ツユ子, 国会職員組合連合会
15	6,135,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 国原 浩, 国会職員組合連合会
16	970,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
17	1,281,033 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 国会職員組合連合会, 第 27 回日本健康増進学会
18	930,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
19	870,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
20	850,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
21	830,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
22	813,080 円	1 件	日本高等学校教職員組合
23	765,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
24	785,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
25	810,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
26	835,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
27	850,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
28	800,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
29	802,200 円	2 件	日本高等学校教職員組合, 広島市小児科医会会長森美喜夫

9 核兵器廃絶・平和建設広島県民会議からの寄贈物品

(単位：円)

年 度	寄 贈 物 品	評 価 額
45	毛糸編機 6 台、ラジオ 1 台	292,000
46	カラーテレビ 1 台、長イス 11 脚	237,000
47	フィルム保管庫 5 台	125,000
49	フィルム格納庫 9 台	251,000
50	スロンブエラストグラフ 1 台、毛糸編機 4 台	1,750,000
52	顕微鏡 1 台、毛糸編機 3 台	442,000
53	胃カメラ 1 台	1,210,000
54	気管支ファイバースコープ 1 台	1,300,000
55	眼底カメラ 1 式	1,385,000
56	ガストロファイバースコープ 1 台	1,500,000
57	ガストロファイバースコープ 1 台	1,313,500
58	大腸ファイバースコープ 1 台	1,411,000
59	気管支ファイバースコープ 1 台	1,115,000
60	オートプロジェクター 1 台、内視鏡格納棚 1 台、吸引器 1 台	915,000
61	ガストロファイバースコープ 1 台	1,300,000
62	顕微鏡 2 台	1,009,000
63	超音波診断装置備品	1,044,000
平成元	顕微鏡 1 台	1,510,000
3	全自動身長体重計	708,000
5	体内脂肪計一式、吸引器、検眼鏡 1 組、パルスオキシメーター 1 台	958,106
6	体内脂肪計一式、インターバル・パワートレーニング・マシン	826,825
7	造影剤遠隔注排装置一式	1,000,000
8	血圧監視装置、視力表照明装置	994,980
9	酸化電位水生成機	875,000
10	ホルター自動連続血圧計、エルゴメーター、マイクロチューブ用遠心機	907,370
12	自動グルコース測定装置	1,500,000
14	上部消化管用スコープ	1,491,000
16	全自動グルコース測定装置	1,250,000
18	内視鏡洗浄器	1,249,500
20	超音波診断装置プローブ 1 台、ゼリーウォーマー 1 台	893,550
22	電子スパイロメータ	999,600
24	多機能心電計	997,500
26	ホルター自動連続血圧計 1 式、電動昇降台 2 式、3 クランクベッド プレグラースーパーマットレスベッドサイドレール 1 式	999,994
28	内視鏡洗浄消毒装置 3 台	1,499,040
合 計		35,259,965

※ ただし、平成 6 年度以降は、核兵器廃絶・平和建設広島県民会議が広島市に寄贈した物品を、同市から貸与されたものである。

10 日本労働組合総連合会広島県連合会からの寄贈物品

(単位：円)

年 度	寄 贈 物 品	評 価 額
平成 10	気管支ファイバースコープ 1 組、高周波焼灼電源装置 1 台	2,477,916
13	自動赤血球沈降速度測定機 1 台 赤沈管 100 本	1,839,915
15	下部消化管用細径スコープ 1 本、カラービデオプリンター 1 台	3,200,400
合 計		7,518,231

11 職員

(平成 30 年 7 月 1 日現在)

課・科名		職 名	氏 名
事務局		事務局長	佐々木政弘
	総務課	課長	面迫 敏朗
		(事)被爆者歴史資料 整理保存担当課長	三好 保
	経理課	(兼)課長	面迫 敏朗
	健康管理課	課長	宮本 淑子
		企画渉外担当課長	影居 嗣久
健康管理・ 増進センター		所長	前田 亮
		部長	内藤久美子
		副部長	三好 保
		副部長	大島 博美
	総合受付課	(事)課長	三好 保
	一般健診科	部長	上野 義隆
		(兼)課長	宮本 淑子
	精密健診科	部長	佐々木伸夫
	がん検診科	部長	加藤 博也
	放射線科	部長	内藤久美子
	ドック健診科	科長	平野 千尋
		(事)課長	大島 博美
		(兼)企画渉外担当 課長	影居 嗣久
	検査科	(兼)技師長	宮本 淑子
	看護科	看護師長	先田 浩美
健康科学館		館長	高尾ひとみ
	管理課	(事)課長	高尾ひとみ
	教育課	課長	田中 恵子

事業概要 平成 30 年（2018 年）版

公益財団法人 広島原爆障害対策協議会

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 8 番 6 号
広島市総合健康センター内

TEL 082-243-2451 (代表)

FAX 082-241-0414

URL <http://www.gentaikyo.or.jp/>
